中北海道地区

会長　五十嵐秀彦

◇令和３年俳句研究交流句会（組織活動部）

令和３年度は当初､「かでる２・７」にて開催の予定であったが緊急事態宣言発令の為急遽、紙上句会に切り替え行った。当季雑詠２句とその選句、選評を冊子にまとめ配布、参加者は５４名１０８句の投句があった。

高点句をあげる。

金魚掬い見てゐるだけの男の子	林　　冬美
うしろだけ雨に濡れたる立葵	大河原倫子
ハモニカは夏の果てまで響きをり	島崎　寛永
かなかなや体の中に飼ふ夕べ	近藤由香子
夏帽子ふわっと海を連れてくる	信藤　詔子
雲の峰丹田意識して立てり	岡本　順子

◇第２２回中北海道現代俳句賞選考委員会　（顕彰係）

令和４年１月２７日「かでる２・７」にて選考委員会を開催、選考委員７名（内２名雪害の為電話参加）により各自の選評を出しあい議論後投票により決定した。本年は未発表作品２０句に応募規定を変更したが応募数は２４篇あり接戦となった。選考結果は

大河原倫子氏が受賞

受賞作「風花」２０句より。

養花天まぶたの重き陶の馬
丹田の秋風ハーレーダビッドソン
夕闇の底にある橋魂送り
狐火の量販店に出てしまふ
美しき散乱にあり冬銀河

◇令和４年度総会

令和４年２月５日（土）札幌市中央区「かでる２・７」において開催予定であったが「まん延防止条例」発令の為紙上会議に変更した。出席者１４名幹事１４名委任状６６名の合計９０名による紙上会議を行い、総会員数１０８名の過半数を超える賛成を得て、令和３年度の事業報告、決算報告、令和４年度の事業計画・予算案について可決承認された。例年開催される新年交流会は中止とした。

◇第３１回中北海道現代俳句大会

令和４年４月５日（日）札幌市中央区「かでる２・７」において開催。参加者５６名。講演は、俳人で現代俳句評論賞を受賞した松王かをり氏が行った。講演内容は著書である俳人故藤谷和子氏との対談集「最果ての向日葵」から樺太での生活や戦争勃発による引き上げ体験などを、対談を中心に講演した。折から欧州の悲惨な世情と重なり、視聴者各々に実感を伴う講演となった。俳句大会の出句は１２４名・４７４句であった。入賞作９句と佳作１２句が選ばれ、講評・顕彰が行われた。次に大河原倫子氏の第２２回中北海道現代俳句賞の顕彰と受賞の挨拶、花束の贈呈が行われた。以上で大会終了し懇親会へと移動した。懇親会はガーデンパレス札幌に３３名の参加者があり、久しぶりに会話が弾んだが２時間の後お開きとなった。

協会賞ほか上位５五作品をあげる。

第３１回 中北海道現代俳句大会入賞作品

さえずりの空にきれいな喉仏	信藤　詔子
倒木の痒いところに茸出て	内野　弓子
こんなに明るい終焉銀杏散る	長野　照子
吊るされて水は金魚玉のかち	菅井美奈子
折鶴腹の空つぽ終戦忌	斉藤　雅美
暗算の途中雪虫湧いてくる	倉部　仁子
鮭が来るバス乗り継いで父が来る	松原　静子
妖怪になる日ちかぢか吊し柿	永野　君代

◇２０２１年１人１句集の発行

令和４年４月１３日発行　　今年の参加者は１０３名。毎年の発行が継続されている。

◇幹事会・会報

期間中の幹事会は６回（１回は紙上開催)。

会報第９２・９３・９４号発行。

（Ｆ よしと）

東北海道地区

会長　石川　青狼

◇釧路現代俳句会例会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため句会は紙上での開催が続いたが､令和３年１０月､実に１年１０ヶ月振りに対面で開催することができた。

紙上開催の間は毎月２５名・５０句前後の参加があり、この日の出席数は２０名だった。

◇第１９回大とかち俳句賞全国俳句大会

令和３年10月開催だがコロナ感染拡大防止のため作品集のみの発表。課題（「山」一切）の部４８５句、雑詠の部５３０句。

課題句入賞（地区関係分）

昆布干す母の背にある幾山河	松原　静子
山盛の馬糞こぼして耕せる	江波戸　明
裏山にジョッピンカケタカ青時雨	粥川　青猿
農の手のひとつと数ふ案山子かな	大沼惠美子

雑詠句入賞（　〃　）

白シャツや少年は砂漠の帆船	吉野喜代子
切株は何も答えず夏の雲	粥川　青猿
初夏の卵こつんと朝の音	松原　静子
手花火や爺であること忘れをり	中島　土方

◇釧路現代俳句会墨書展

令和３年10月２１日（木）～１１月１８日（木）まで、釧路市交流プラザさいわいにて開催。参加１３名、１６作品。

◇第３２回東北海道現代俳句協会総会

令和４年２月１７日（木）帯広市とかちプラザにて予定していたが、コロ

ナ感染者数の急増のため紙上での開催となった。

初めに役員・幹事に総会資料を送付し報告事項等内容の承認を得て、その後全会員に対し同様の確認を行った。結果、多数の賛同を得て令和３年度事業報告・会計及び会計監査報告と新年度事業計画案・収支予算案は共に承認・可決された。なお今年度は第９回東北海道現代俳句協会賞の作品募集を行う。

◇第２８回東北海道現代俳句大会

令和４年6月２６日（日）釧路市生涯学習センターに於いて講演は詩人の藤田民子氏による「私の小さな俳句体験」。投句総数２６０句、大会出席者は３０名で懇親会は中止とした。

上位入賞者は次の通り。

東北海道現代俳大会賞

履歴書を一度も書かず畑を打つ　伊藤　やす

北海道新聞釧路支社賞

鳥雲に空き家に残る火伏せ札　松原　静子

釧路新聞社賞

葱坊主皆んなどうしているのかな　高橋　テル

釧路俳句連盟賞

白鳥の風掴むとき北を向く　江波戸　明

優秀賞（地区関係分）

夫の手を借りて坂道あたたかし　吉野喜代子

抽出しにナイフの替刃利休の忌　粥川　青猿

佳作賞（　〃　）

ぼた山に埋もれし叫び五月祭　北原　白道

ひらがなの図鑑を送るつくしんぼ　佐藤かよ子

◇会報発行

第１２号（３年７月）、号外４号（１１月）、第１３号（４年 1月）

（**鮒橋郁香**）

南北海道地区

会長　**都賀由美子**

コロナの影響もあり、対面で行う吟行会を中心とした事業が、すべて中止となりました。これで２年連続、恒例行事となった地域の高校文芸部と合同で行う吟行句会や各地区吟行会などを開催することはできませんでした。また、各地域を支えて下さっている会員の方々の高齢化に伴い、地域毎の活動も停滞しています。そこで令和５年には、南北海道現代俳句協会の中間地点である白老、登別、室蘭を中心とした胆振地区で当協会会員を一同に会する吟行句会を行う計画を立てています。その他にも地域の学校や句会のための講師派遣を積極的に行う予定です。

この１年の事業報告は以下の通りです。

◇会報発行

令和３年１２月２５日、第３２号発行

◇総会

令和４年３月２０日実施。当地区は、交通の便も悪く、高齢化も進み、一

堂に会して総会をすることが困難なため、例年通り紙上総会としました。
Society5.0 の時代の俳句を模索しながら、少しずつ社会の変化に順応し、継続可能性を第一にして、会員の皆様のお手伝いができるようにしていきたいと考えております。

（佐藤日和太）

北北海道地区

会長　十河　宣洋

◇第３３回総会

令和４年４月２４日(日)第３３回総会を旭川ときわ市民ホールで開催。昨年からのコロナ禍の続く中、総会の時間短縮を考え総会終了後の俳句会は中止した。出席者１５名の参加で総会を無事終了。さらに欠席会員に議案と承認可否に関する書類を郵送し、１４名の令和３年度事業報告会計報告、令和４年度事業計画、予算案の承認の返信を得た。会長及び幹事役員は留年。

◇第３１回北海道現代俳句大会は令和４年６月１９日（日）

旭川市の旭川トーヨーホテルで開催した。俳句作品５７４句があり来賓の中村和弘会長と講師の神野紗希氏の列席をいただき、北海道４地区の会員と併せて５７名の出席をもって盛会に終えることができた。

大会賞はじめとする高得点の作品は次の通り

春キャベツざくざく侵攻の軍靴	松王かをり
雪掻いて掻いてこの世の裏に出る	阿部　満子
白菜の芯に汽笛のとほりけり	倉部　仁子
春夕焼棚田一段づつ暮れる	斉藤ふじお
閉じ込めた言葉がどっとふきのとう	小川　　桂
左手はまだリラ冷えのままでいる	西村　山憧
浄土まで繋がるつもり毛糸玉	粥川　青猿

中村和弘現代俳句協会会長特選句

乳張りし日の胸騒ぎ花朧	渡辺のり子
銀色の魔法瓶捨つ昭和の日	藤原ハルミ
白菜の芯に汽笛のとほりけり	倉部　仁子

神野紗希講師特選句

白菜の芯に汽笛のとほりけり	倉部　仁子
結晶と融解そして冬菫	鈴木　夕希
涙痕はひかりに似たり鳥曇	橋本　喜夫

◇顕彰

北北海道現代俳句協会賞

北見弟花　第２句集『馬鹿一の石』

（加藤ひろみ）

」

青森地区

会長　**千葉　芳醇**

◇第１２回秋の吟行互選俳句大会

今年も新型コロナウイルス対策のため、自主吟行として希望者（４８名）による大会を令和３年１１月２６日付けで開催した。

[成績] ①芒原ここが青良の指定席・千葉芳醇、②赤とんぼ絵本の窓が開いてゐる・松宮梗子、③自然薯をモーゼの杖のごと提げ来・田村正義、④一村の老いゆく眠り柿たわわ・後藤岑生、⑤笑み溢る鎮守の鬼こ稲穂垂る・赤坂雪洲、⑥海峡向く海峡の家冬隣・森下睦子、⑦小春日やほろりと今が過去になる・大澤せい、⑧照らされて竜がのたうつ菊祭り・成田唯央、⑨竹山の三味を辿れば雁がねも・白戸星央、⑩水色の塩瀬の帯や紅葉舞ふ・木村詩織

◇令和４年度総会

一昨年からの新型コロナウイルス感染が収まらないことから、今年度の総会も通信制で行うこととし、議案を全会員に郵送し、５月１４日付で書面表決を受け、これを総会とした。

◇２０２２年版青森県現代俳句年鑑賞

今年で5回目となったこの賞は、会員の作品６１編が対象で、その結果は次のとおりとなった。

第１席「 鬼やんま 」　　五所川原市　松宮　梗子

◇第１５回青い森県民俳句大会

昨年に続き新型コロナウイルスの影響で会場での大会が困難となり、兼題だけでの大会にせざるを得なくなりましたが、参加者は１７３名になった。実施日は5月１４日とした。

○高点句・兼題作品Ａ（剪定）

小気味良き音や剪定日和なる　吉田千嘉子
生きざまは未だ変えれず剪定す　稲部天津子
遠景は雪の甲田嶺剪定す　三野宮照枝

○高点句・兼題作品Ｂ（若布）

茹でられし若布が海を語りだす　髙野万津江
復興の浜に広ごる若布の香　工藤　邦子
若布干す浜の番屋に風集め　長利　冬道

○高点句・兼題作品Ｃ（当季雑詠）

春キャベツ光もろとも剝がしけり　中澤　玲子
マネキンのつまらなさうな春の昼　工藤　邦子
起立礼指の先まで入学す　敦賀　恵子

◇年鑑の発行

２月から原稿を募集し、会員各自８句での合同句集でもあると共に、各種俳句大会の記録、協会規約、会員及び役員名簿等も掲載している。２０１８年版からはこの年鑑の作品を対象に年鑑賞を創設した。参加者には2部、会員には1部を配布したほか、新聞社、図書館等関係機関にも配布した。

◇会報発行

会報第１４号（令和３年１０月２５日）
会報第１５号（令和３年１２月１３日）

会報第１６号（令和４年６月１０日）

（大瀬　響史）

岩手地区

会長　　名久井清流

◇第４回通信句会　（令和３年８月　参加者３３名）

各選者特選句・互選高点句

㊨	秋はじめ身ぬちの弦の鳴り出しぬ	千葉　任子
㊨	庭花火母の袂を子は握り	三浦　寿子
㊨	防護服昼夜戦い愛の汗	中野　風子
㊨	なまくらな出刃に噛みつく大南瓜	さいとう　白沙
㊨	しばらくは夜の名残りの朝ちちろ	安部　克詠
㊨	ブティックを覗いて帰る鬼やんま	佐々木　徳子
高	豆腐屋の豆腐涼しき水くぐる	安部　克詠
高	見廻りの腰まで濡れて稲の花	小野寺　束子
高	なまくらな出刃に噛みつく大南瓜	さいとう　白沙

◇第３５回現代俳句東北大会（岩手大会）

９月の本大会は中止、募集句のみの大会。投句数６５４句。

◇第３回盛岡国際俳句大会の吟行句会にて講師（名久井会長）

◇令和４年度総会・俳句会

３月２７日開催予定を中止

◇第５回通信句会　（令和４年３月　参加者３５名）

各選者特選句・互選高点句

㊨	先生のきれいな楷書卒業す	四戸　美佐子
㊨	雪解星難民の子ら眠りしか	千葉　任子
㊨	頭ひとつ親の背を越し卒業す	牧原　美喜子
㊨	草に寝て五体ゆるみし春の昼	三浦　しおり
㊨	寝まりたる牛さながらに残る雪	名久井　清流
㊨	水ぬるむ洗ふでもなく手を入れて	安部　克詠
高	水ぬるむ洗ふでもなく手を入れて	安部　克詠
高	紙漉きの木槌打つ音梅ひらく	夏谷　胡桃

◇第６回通信句会　（令和４年６月　参加者３１名）続行中

◇地区の大会受賞作品

◎岩手県俳句連盟第４１回県下俳句大会

募集句　連盟大会賞

冴え返るマトリョーシカの哀しい目　　武田　稲子

◇会報「現代俳句いわて」№７９　（令和３年１２月２５日発行）

内容　令和３年度幹事会記、第２回～第４回通信句会作品抄、大会受賞作品、句集紹介、新入会員紹介など

（五日市明子）

秋田地区

会長　竪阿彌放心

◇秋田県現代俳句（紙上）大会の実施（７月）

新型コロナ対策のため「吟行」・「俳句を語る会」を取りやめ紙上俳句大会に変更実施。５６人参加。主な入賞作。

（雑詠及び詠込「場」）

雑詠	求愛も威嚇も音符春の鳥	森田千枝子
〃	梵鐘の母音ひろがる大でまり	三浦　静佳
〃	村を出る虹の根っこを踏み外し	武藤　鉦二
詠込	薫風の停車場ここから征ったきり	三國谷美津代
〃	道場に一撃の声夏来る	金　　道博
〃	まくなぎや牧場の牛の尿太し	片倉　　弓
〃	母を追ふ牧場の子馬風薫る	金　　民子

◇令和３年度第２７回秋田県現代俳句協会作家賞

応募作品１２編。審査員６名で審査決定（１２月１８日）

作家賞	「鬼は外」	三浦　静佳
準作家賞	「老いの余情」	鈴木　栄司
入選	「オラトリオ」	和田　　仁
佳作	「白露」	岸部　吟遊

作家賞受賞作品より三句引く

春月のぐらり脚から眠くなる

鰯雲の大群老いは急ぎ足

傍線のような一日髪洗う

◇令和４年度定例総会（２月）

総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面表決とした。会員６５名中５４名の賛成で事業計画等が承認された。

◇第３７回現代俳句秋田大会（２月紙上発表２７２句）

主な作品。

片倉俊秀選　特選

擂鉢に子の手あつまるとろろ汁	種村聖巴子
なまはげ来る星の匂いの藁を被て	丹生　千賀
冬ぬくし師の視座秘めて一筆箋	鈴木　栄司

三浦静佳選　特選

懐中に古写真あり枯野あり	佐藤　君子
雪下しルールなき空見上げたり	片倉　俊秀
根雪来る母に転倒注意報	船越　みよ

大川悦子選　特選

犠牲打の母の来し方石蕗の花	船越　みよ
冬木の芽あなたの娘で良かったわ	加藤　昭子
葱のどこ切っても涙鉦二亡し	石井小嵐峰

現代俳句協会長賞

葱のどこ切っても涙鉦二亡し	石井小嵐峰

秋田県現代俳句協会長賞

冬ぬくし師の視座秘めて一筆箋　　鈴木　栄司
秋田県芸術文化協会長賞
来し方の大方は些事木の葉髪　　加藤　隆二
秋田県俳句懇話会長賞
なまはげ来る星の匂いの藁を被て　　丹生　千賀
秋田県現代俳句協会賞
雪掻きや生き抜く骨の軋む音　　船越　みよ
秋田県現代俳句協会賞
父よりも母よりも生き初日受く　　宮本　秀峰
（片倉　弓）

宮城地区

会長　**渡辺誠一郎**

◇吟行会

実施日：令和３年１２月５日　参加者数：２０名

亘理吟行会：伊達政宗の重臣伊達成実霊屋や国の天然記念物に指定されている称名寺のシイの巨樹等を巡った後、町立図書館の視聴覚ホールで句会を開催。

（高得点句）小六月白き寝釈迦の鼓動聴く　　星　節子
冬ぬくし巨木の洞に目がひらく　　小田島　渚
称名寺の石段やさし散紅葉　　日下　節子
転げたる殉死の墓石冬紅葉　　丸山みづほ
山茶花や祖先も地震の地に生きて　　伊澤てつを
青空の動かぬ水面蓮の骨　　坂下　遊馬

◇ＩＴに関するアンケート

実施日：令和４年１月３１日　回答数：４４名（４７．３％）

目的：ネット句会の活用など今後の事業運営の参考のため。

集計結果：ネット句会の経験者は９％、オンライン会議は１６％。モバイル機器はスマートフォンの利用が最も多く７０％だった。

◇定時総会

令和４年３月２７日に予定していた総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、書面による決議とした。（会員数９３名中６１名の承認）

◇研修会

実施日：令和４年４月１６日　参加者数：１０名

研修名：「インターネット句会をしてみよう」

会場：仙台市中小企業活性化センター

内容：現代俳句協会のＨＰの地区活動、ネット句会、ズームの利用方法の説明の後、実際に夏雲システムを利用した当季雑詠２句出しのネット句会を開催。

（高得点３句）

８点　掌の花びらを風の中に戻す　　奥村　俊哉
７点　猫の尾の触れてゆきたり桜草　　庄子　紅子
６点　逆光にさくらの血管見たような　　小村　寿子

（以下順不同）

虻上る竹ひとふしの唸りそむ	浅川　芳直
縄跳びの子らの数より影多し	小田島　渚
花の雨傘にはみだすランドセル	小関　桂子
海境に挙る初蝶二万頭	坂下　遊馬
蠅生る最上階のオフィスかな	成田　一子
生も死もたつた一文字さくら草	丸山みづほ
仙台の風吹くところ桜草	渡辺誠一郎

◇会報発行

宮城県現代俳句協会　ＮＥＷＳ２０２１．１２　№４５

発行内容：会員参加型の紙面づくりの一環として「一句一葉」（自句寸感１０名）を新設。亘理吟行会の速報。

宮城県現代俳句協会　ＮＥＷＳ　２０２２．６　№４６

発行内容：「一句一葉」（自句寸感１２名）研修会レポート「インターネット句会をしてみよう」

（**坂下遊馬**）

山形地区

会長　**大類つとむ**

◇役員会並びに総会

令和３年も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面による協議、決議となった。

役員会　　５月２５日～６月７日　書面協議

総会　　６月２４日～７月７日　書面協議

◇会報の発行

第２５号発行　　１０月

◇俳句会

紙上俳句会　　２４名参加

選者　現代俳句協会会長　中村和弘先生

特選句

方丈の気迫伝わる夏衣	松浦　廣江
蛍火や我は眩暈として存す	大志田勇志
青ぶだう武士が開墾したる丘	井上　康子
熱癒えぬ山河に炎ゆる日が昇る	佐竹　伸一

◇その他

大会助成事業　山形県少年少女俳句大会　尾花沢市

第３５回現代俳句東北大会　　岩手県担当

コロナウイルス感染防止のため募集句のみの参加

（**佐竹　伸一**）

福島地区

会長　春日　石疼

福島地区は２０２１年度､新型コロナウイルス感染症の合間を縫いながら、総会（前号報告済）や吟行などの「顔を合わせて」の行事を行うことが出来た。また通信句会を行い、多くの会員が参加した。

◇秋の吟行句会

県現俳としては2回目の吟行句会を１０月２４日、県南部の須賀川市で１２名の参加で行った。須賀川は福島県の中でも、市と市民ぐるみで俳句を取り組んでいる地域である。当日は好天に恵まれ絶好の吟行日和となり、新しく歳時記に採用された「松明あかし」会場の五老山、昭和３９年東京オリンピックでのマラソン銅メダルの円谷幸吉の墓所・十念寺、日本の滝百選の一つである乙字ケ滝、須賀川牡丹園などを見学して、「須賀川風流のはじめ館」で句会となった。

当日の主な句は以下の通り。

杉の実や出水ありたる滝の辺に	高市　宏
秋日傘まわせば遠くなる男	草野志津久
犬塚の犬の目のなき秋土用	大河原真青
石仏の皺のあらはに冬支度	鈴木亜由美
秋深し死に行く蝿は金色に	丹羽　裕子
ウルトラの父秋光を束ねをり	植木　國夫
白鷺の佇ちて定まる滝の秋	永瀬　十悟
龍淵に潜む乙字の左方かな	藤巻　淳
乙字ケ滝の乙どのあたり秋麗	佐川　盟子
風流のはじめに拾う軒の栗	石澤　遥
新松子地球の罅は滝となり	宗像眞知子
墓碑銘は自死と記さず冬隣	春日　石疼

なお当日の最高点は宗像眞知子さんだった。

◇会報紙上通信句会

３月から４月にかけてハガキによる投稿の「通信句会」を行い、会員の交流に努めた。４１名の会員中３４人の会員から応募があり、以下の句が高得点句であった。

どの道も誰かの家路春の星	草野志津久
かなしみの器となれり春満月	池田　義弘
メガソーラーの真ん中に墓地鳥帰る	宗像眞知子
瞑想と眠りのあはひ蟇	鈴木満喜子
世を遠く生きたる思ひ土筆摘む	久保　鞠鼓
裸木に感情線の息づかひ	平子　玲子
人住めず陽炎となる双葉町	大河原真青
雪の呼吸土の呼吸と折合う日	五十嵐　進
辛夷咲く湯灌の父の髭を剃る	服部きみ子
乳飲み児の流し目に会ふ春うらら	唯木イツ子
眼裏に飼う蝶と毒今朝は蝶	八島ジュン
後ろへと漕いでボートもふらここも	阿部ゑみ子

◇県会報の発行

今年度も予定通り年４回の発行が出来た。「全会員参加」を目標に、会員の皆さんの協力により継続している。

（春日石疼）

茨城地区

会長　髙橋　和彌

◇第３８回現代俳句茨城大会　　会場　笠間市友部・トモア

現代俳句協会副幹事長・佐怒賀正美先生を講師に予定するもコロナ感染の影響により講演無しの大会とした。参加者６６名

大会・兼題の高点句

お守りのように置かれる余り苗	小沼　悦子
少しずつ遅れる時計昭和の日	笠原　真枝
書けそうで書けぬ遺言花は葉に	高塚　文子
道草も学びの一つ蝌蚪に足	大野ひろし
詰め過ぎの母の引き出し敗戦忌	高野よしこ
泣くときはほたるぶくろの中がいい	黒澤みどり
たばこ屋の名残の出窓昭和の日	安藤　玲子
あと一年あと一年と田水張る	中川　芳子
まだ命あるもの担ぎ蟻の列	小川みのる
草萌ゆるやわらかな嬰丸く抱き	川崎とみ子
西瓜割地球叩いてしまいけり	大野ひろし

現代俳句協会副幹事長・佐怒賀正美先生特選

啓蟄やひとむかし後の瓦礫浜	服部　青甫
女郎蜘蛛ゆらし線量計ゆらし	石原　道明
産声を聴く日近づく夜長かな	山口　富雄

茨城県現代俳句協会会長・髙橋和彌特選

畦塗りの終えたる田より目覚めけり	菅原　仲江
グランドに一礼をして卒業子	石川　昌利
宇宙から笑顔の返事みどりの夜	永井　弘子

課題『正』の部高点句

八月や修正液で消えぬ過去	大野ひろし
正座より始まる修行蝉時雨	小沼　悦子
正装の父の遺影や夏座敷	森井　省二
尺蠖の折り目正しき一歩かな	笠原　真枝
玉音の正午のラジオ日の盛り	伊沢とよ子
大正のロマンの話かき氷	村上　咲
廃校に残る正門つばめの子	浅野とし子
忖度の担ぐ正論亀の鳴く	藤　洋子
背泳ぎに浮いて正午の陽のにおい	佐藤　和子
正論に逆らう蟻のＢとＣ	塩谷きみこ
正直に生きて真の汗を拭く	簗　岳遊

茨城県俳句作家協会会長・矢須恵由特選

八月や修正液で消えぬ過去　大野ひろし
茨城県現代俳句協会名誉会長・鶴岡しげを特選
八月や修正液で消えぬ過去　大野ひろし
茨城県現代俳句協会会長・髙橋和彌特選
正座より始まる修行蟬時雨　小沼　悦子

◇第２９回作品奨励賞

既受賞者を除く会員全員を対象に３０句で募集。応募者２名。

作品奨励賞選考委員会において､今後の取り組みと方向付けを来年１年をかけて検討・決定する。

受賞者　永井淑子　矢口冨久の２名。

作品

永井淑子　「柿のれん」

嫁迎う村の家々柿のれん
畑を打つ私が私でいるうちは
農機具の納屋の奥まで稲光り
夕焼を使い切るまでボール蹴る
花筵上座えくぼの三歳児

矢口冨久　「梅開く」

裸婦像の乳房をゆらす春の地震
ネモフィラの丘にこぼれる空の青
駅弁の紐は固くて原爆忌
春匂ふ小さき駅の伝言板
十二月八日は永久に巡り来る

◇全句講評講座

開催日　令和４年1１月１６日
講師現代俳句協会副会長・秋尾敏先生
会場　水戸市・県立青少年会館

参加者３３名

秋尾敏先生特選

ふりみだす髪のつけ根に冬が来る　高野よしこ
新蕎麦のそのうち立てのうすみどり　伊沢とよ子
神の留守長テーブルの端と端　高野紀世子

『秋尾敏先生入選』

鵙の天言ひたきことは紙に書く　宮路　久子
三掴買うおまけに白の菊一花　新井　洗澄
てのひらに情の生まるる榠の実　根本菜穂子
軒先にさまざま吊るし冬に入る　髙橋　和彌
目測の誤差にずれこむ夜なべの灯　安田　政子
バリウムの白い迷走秋時雨　齋藤　和子
満足と誰が決めたの冬苺　山田美枝子

◇茨城県現代俳句協会第１回地区別句会

開催日　令和４年１月２３日
会場行方市天王崎交流センター「コテラス」
コロナ第６波の感染拡大により紙上句会として実施。

参加者　１７名

地区別句会高点句」

凍滝の芯にかすかな水の音　安藤　玲子
人ひとり加わり焚火持ち直す　宮路　久子
大仏はますます猫背山眠る　安藤　玲子
寒稽古一瞬青き風が過ぐ　宮本喜実世
湯のたぎる音のみの寒夜かな　佐藤　和子
寒晴やブロンズ像は天指して　小松崎黎子
水戸学の尊王攘夷淑気満つ　森井　省二
母の髪梳いてる窓辺日脚伸ぶ　伊沢とよ子
神妙に鳥の来ている氷面鏡　村田　妙子
待春や素焼きの鉢の罅深し　佐藤　和子

◇会報の発行

第１３８号～１４０号を発行、本部を始め各地区協へ送付。

◇第３３回吟行会

開催　　令和３年９月１７日
会場　　笠間市稲田西念寺　親鸞聖人立教開宗の地コロナ第６波の感染拡大により４年度に再び計画。

◇令和４年度通常総会

会場水戸市・県立青少年会館
参加者　７２名（委任含む。委任率７２％）
報告・活動計画ともに満場一致で採択。
新入会員を紹介の後、総会句会を実施

令和４年度通常総会句会結果・高点句

戦なき空を自在につばくらめ　飛田　伸夫
啓蟄や出土の土偶生あくび　森井　省二
初音まで吸い込みそうな深呼吸　北田　久雄
薄氷と人をこわしてゆく戦車　根本菜穂子
その獲物略奪ですか　蟻の列　北田　久雄
寂庵の笑いの法話花明り　佐藤　和子
フラフープ投げて春風くぐらせる　佐藤　和子
甦る父のげんこつ昭和の日　大野ひろし
ひと吹きに百の宝石しゃぼん玉　大野ひろし
明日にでも核飛ぶ不安昭和の日　山口　富雄
純白の襟の眩しく卒業す　鶴岡しげを
感性は薄れゆくもの新樹光　塩谷きみこ
種を蒔く生きる証の糧となり　東ヶ崎禎子
おおかたは空気でありし春ショール　根本菜穂子

参加者作品・順不同

洪水の跡の碑さへづれり　高野よしこ
席春てふ文字の消えゆく汀かな　菅原　仲江
葱の花憂ふる先のウクライナ　白土　昌夫
春泥やみんなまんまる田舎の子　村田　妙子
落椿燠火のように固まりて　新井　洗澄
母と行く墓参の小径沈丁花　淀名和さち
止まり木を設けて待ちし青葉木菟　齋藤　和子
訃報蘭まづ見てしまふサクラかな　黒澤みどり
春萬月浅瀬で遊ぶ二枚貝　岡里　共子

魁田や烈公梅の五六輪	根本きよ志
若き日の歌声喫茶遠霞	笠原　壮介
閼伽桶に想いを満たす春の水	髙橋　和彌
傷ついてやさしくなって弥生尽	安田　政子
げんげんやかの地を案じ八〇〇〇キロ	飯田ヒロ子
蓬摘むとなりに祖母といもうとと	伊沢とよ子
つちふるや掴みどころのない話	宮路　久子
平坦につまづく齢春寒し	糸賀　睦子
キャンパスの穴場覚えぬまま卒業	鈴木　葭江

（山口富雄）

栃木地区

会長　和田　浩一

◇第６５回俳句研究会

令和３年９月７日（火）

講話　「歳時記と季語」　　講師　速水峰邨

※新型コロナウイルス対応のため中止　会報１６２号に掲載

◇第１６回通信句会　３年５月~８月（表彰９月７日俳句研究会）

全支部を対象とし、参加会員の互選。参加率８６％。

句会、吟行会などに参加できない人の参加も多い。

特別選者の特選賞

椿落つ八嶋八つ橋八つ祠	橘川　芳子
バスを待つ日傘の中の子守歌	幸田慶三郎
田植機の後振り向かず去りにけり	須藤　正之
何もかも忘れし母の目に青葉	増山　ちさ
小さきもの隠れて植田ささ濁る	森本　金一
しがらみを脱ぎ捨ててきたなめくじり	小林たけし
おくやみ欄にての訣れや牡丹剪る	橘川　芳子
白日傘開きて心定まりぬ	大嶋　邦子

◇第３０回現代俳句色紙展

令和３年１０月３０日（土）～３１日（日）　栃木市栃木文化会館

※新型コロナウイルス対応のため中止

◇総会及び新春俳句会並びに賀詞交歓会

令和４年１月１６日（日）　小山市パレスホテル「彩華」

※新型コロナウイルス対応のため中止

新春俳句会作品（事前投句）

晩節の時間眠らせ黄の銀杏	和田　浩一
石の標本どこかで雪の降る匂ひ	中井　洋子
枯山に枯れる音あり我にもあり	石倉　夏生
身半分抜けて大根翔ぶ構へ	速水　峰邨
平凡に生きて晩年寝正月	須藤火珠男
校庭に晩秋という落としもの	中村　克子
オーオーと心に響く合言葉	太田　卯圭

聖堂は島の日時計初景色　小林たけし
鑁阿寺の日照雨の寂や花八つ手　日向野初枝
大マスク外し黙食つけて黙　永山　華甲
古井戸に綿入れ半纏着せてあり　高木　洋子
初晴れに翳して母の腕時計　堀　秀子
かぎりなく天地湛える初明り　佐藤　道子
初富士へ七半を駆り風を切り　沼田　満
着ぶくれて矢印探す渋谷駅　遊座　純子
木守柿時間を止めているような　増山　ちさ
校庭の冬を楕円に持久走　佐々木輝美
モナリザの瞳の奥に春の色　宇津木玲華
点滴の終りに見ゆる冬の虹　水口　圭子
山茶花の白透き通り喪の知らせ　北島　洋子
初空へ肚から叫び「癌完治」　小杉栄美子
熱燗も飲みたくなるわ猫だって　本間　睦美
元日や光差し込む松の幹　青木　廣子
爺婆もＬＩＮＥに参加お正月　須藤　正之
表には「笑う」と太く初日記　田中　房子
漬物の重しをゆるめ除夜の鐘　和田　璋子
客の目の動きを追へり菊師の子　中村　國司
冬山を歩くいつしか犬の耳　大竹　照子
駅前に溜まる子らいて雪蛍　根本菜穂子
木枯に向かって赤いランドセル　戸田富美子
焼芋は心の隙間埋めるもの　石川　和子

◇第６５回俳句研究会

令和４年３月２３日（水）　佐野市城山記念館
※新型コロナウイルス対応のため中止

◇第１７回通信句会

推進期間　５月～８月（俳句フェスティバルにて表彰）

◇創立３５周年記念事業　俳句フェスティバル

日時　令和４年１０月１６日（日）
場所　栃木市・ホテルサンルート栃木
内容　祝賀行事・大会作品募集・記念句会
　　記念講演　現代俳句協会副幹事長　佐怒賀正美先生
　　記念アンソロジーの刊行

◇第３０回現代俳句記念色紙展

日時　１１月１９日（土）～２０日（日）
会場　栃木市栃木文化会館

◇支部句会

県南支部　「昴句会」　毎月第２月曜日
県西支部　「三毳句会」　毎月第２木曜
宇都宮支部「亀の会」　毎月第３土曜日
栃木支部　「山麓俳句会」隔月第３水曜日
上都賀支部「きらら句会」毎月第２木曜日

◇会報の発行

１６４～１６７号（刊行予定も含む年４回）

※１６６号は特別号・８ページ、記念大会報告

（中村克子）

群馬地区

会長　原田　要三

◇令和３年度定期総会

令和３年４月１０日の定期総会、俳句大会並びに懇親会はコロナ禍により中止。俳句大会は事前投句による紙上俳句大会として執り行われた。総会に係る諸議案については会員全員に案件を郵送し全議案を可決した。

◇第２９回群馬県現代俳句協会大賞（応募総数４編）

大賞　「匹夫なれども」　本田巖

三寒に耐へ惚けずに四温待つ
もう少し畑で生きたし寒九の雨
啓蟄や田に遊びゐて八十年
反骨の農夫三代虎落笛
われ畑に鳥は塒へ秋の暮

◇第３５回俳句大会（応募総数１８６句）

令和３年４月１０日
入賞作品・上位５句

現代俳句協会賞
手を振るも言葉の一つ冬帽子　大沢　友江

群馬県教育文化事業団賞
啓蟄や脚萎え妻に靴揃へ　野村　紘一

上毛新聞社賞
でこぼこな人だから好き春田打つ　河合　秀美

毎日新聞社前橋支局賞
果たさざる夢の数ほど豆を打つ　中里　麦外

群馬県現代俳句協会賞
蕗の薹日の香土の香ともに摘む　石井　紅楓

◇第７回紙上俳句大会（応募総数１８０句）

令和３年９月
入賞作品・上位５句

捨てきれぬ過去をひろげて土用干し　大沢　友江
噺家のゆるりとぬぎぬ夏羽織　石井　紅楓
連れ帰る亡父の野良着の案山子かな　二本松よし子
とんぼうの群るる高さに風の道　田中　恵子
夏帯や野心もたねば屍に　牧野美知子

◇第２６回吟行会（参加者２３名）

令和３年１０月１７日
入賞作品・上位５句

竹林の一叢を研ぐ秋の風　石井　紅楓
石蕗の花座せば楫取の聲かすか　清水　里子
石蕗は黄に一閣いまも江に臨む　中里　麦外

行く秋や百年こえし松の瘤　　大島　知子
小流れのやがてさざなみ石蕗の花　　河合　秀美

◇第７回研修句会（参加者１５名）

令和３年１１月３日
参加作品・５句抜粋

秋深しボールペンにも癖のあり　　石原　玲子
おろしたての靴の違和感草紅葉　　久米　桂子
いつの間に一組なりし干布団　　佐藤　愛子
次の世もこの母の子で夕紅葉　　松島　啓子
下校時のくしゃみひとつに赤面す　　真鍋　俊男

◇会報発行

第６５号（令和３年１月１０日)、第６６号（令和３年６月１０日）

（**河合秀美**）

埼玉地区

会長　**山﨑　十生**

◇監査会

１月２３日（日）　会計監査（パルコ９Ｆ）

◇理事会　－　定期総会（コロナ感染により中止）　－

・埼玉現代俳句大賞発表　・一句会（当季雑詠１句）

２月１３日（日）　さいたま文学館１Ｆホール　９時より
第１９回埼玉現代俳句大賞発表（詳細は「会報」８２号に掲載)・応募３６篇

準　賞
「漂着す」　茂里　美絵
準　賞
「森」　岡村　行雄
準　賞
「退屈」　金子　和美
準　賞
「誰からも」　内野　義悠
準　賞
「長電話」　木下　周子

◇会報第８２号発行

３月１５日（火）　埼玉県現代俳句大賞・他

◇第４４回埼玉俳句大会

７月１０日（日）　熊谷市立文化センター文化会館
当日投句（当季雑詠１句・１１時３０分締切・受付１０時）
講演　田中亜美先生　演題　金子兜太俳句の魅力

◇第２０回埼玉現代俳句大賞募集

８月１日（月）～１０月１７日（月）　埼玉県現代俳句協会員に限る

◇会報第８３号発行

９月１日（木）　第４４回埼玉俳句大会・他

◇第２０回吟行俳句大会

１０月３０日（日）　場所：加須市民総合会館（市民プラザかぞ）
出句　嘱目２句　出句締切：１２時

◇ブロック長会議

１１月２６日（土）　さいたま文学館
令和５年度定期総会へ向けて
事業計画の実施状況等

随　時	新会員募集	推薦・紹介
随　時	会報編集会議	会報編集・校正等
随　時	事務作業	会報発送事務等　事業計画の実施状況等

（加藤いさむ）

千葉地区

会長　並木　邑人

◇秋の吟行会

令和３年１０月２９日（金）　船橋市・石川淳、太宰治小旅行
句会場　船橋市勤労市民センター　参加者４６名
時間短縮を図るため披講を省略し、選句までで解散
上位入賞句

海老川は夜汽車の匂ひ冬隣	越野　雄治
秋高しメロスは影を置き去りて	池田　博臣
九重橋くぐりて消えし秋の蝶	徳吉洋二郎

◇春の吟行会

令和４年４月２１日（木）　市川市万葉植物園
句会場　船橋市勤労市民センター　参加者４１名
時間短縮を図るため今回も選句までで解散
上位入賞句

錯乱の国あり熊ん蜂の羽音	髙橋　健文
家持か人麻呂か蜂に追わるるは	木之下みゆき
まろまろと言霊集むおきな草	久野　康子

◇令和４年度総会・俳句大会

令和４年３月２０日（日）　千葉市文化センター
コロナ禍により、定期総会、俳句大会、懇親会は中止。９８４句の応募があった事前投句に係る俳句大会は、郵送により実施した。また総会に係る諸議案については、役員及び総会出席予定者による書面決議を行い、３月２４日までに全議案を可決したものと決定した。
議案のうち役員改選は次のとおり

会　長	並木邑人
副会長	髙橋健文　髙橋宗史　徳吉洋二郎　長井　寛　木之下みゆき
幹事長	羽村美和子
副幹事長	石井紀美子　野口京子
事務局長	岡田春人
事務局次長	伊与田すみ
会計幹事	松本千花

幹　　事　東　國人　石井　稔　上野紫泉　遠藤寛子　川上典子
越野雄治　小林　実　清水　伶　下村洋子　白木暢子
鈴木螢子　林　ゆみ　星野一惠　増田豊子　三須民惠
三宅たくみ　森井美惠子　森須　蘭　山﨑幸子
監査役　　久野康子　矢野忠男

俳句大会上位入賞句【事前投句の部】

千葉県知事賞
もう誰の墓でもなくて銀木犀　なかもと淑子

千葉県現代俳句協会賞
案山子の言葉判る村長当選す　國分　三徳

千葉市長賞
たましいは火色とおもう三島の忌　田沼美智子

千葉県教育長賞
桜満開ところどころが飢えている　石井紀美子

毎日新聞社賞
野火叩く農継ぎし子も継がぬ子も　高橋富久江

千葉日報社賞
老いるにも器用不器用花菜漬　加藤　法子

朝日新聞社千葉総局賞
大寒や生あるものはすぐ乾く　髙橋　健文

◇研究句会

★津田沼研究句会　毎月第２火曜日　午後１時より
津田沼１丁目町会会館　２句事前投句

★青葉研究句会　毎月第４木曜日　午後１時半より
千葉市民会館　３句事前投句

★柏研究句会　毎月第２土曜日　午後１時より
柏市・ハックルベリー　５句当日投句

★君津研究句会　毎月第１木曜日　午後１時半より
君津市生涯学習交流センター　３句事前投句

コロナ禍により句会ができない場合は、それぞれ通信句会により実施

◇幹事会等

定例幹事会　年４回　８・１１・１・５月（８月はコロナ禍により書面決議）
臨時幹事会　４月に役員引継実施
顧問会議　３月に予定したが、コロナ禍により中止

◇会報「現代俳句千葉」の発行

９・１２・３・６月刊　１４２～１４５号

（並木邑人）

東京都区

会長　山本　敏倖

◇令和３年度第５３回秋季吟行会・新入会員歓迎会

令和３年９月２４日（金）台東区民会館

昨年はコロナ禍により自粛中止となったため、久しぶりの対面吟行句会となった。会場は今年から浅草に変更。参加者３３名。

〈新入会員当日句〉

仲見世の江戸柄マスク秋の塔

安藤　利亮

仲見世は疎ら秋空ひろすぎる	さいとうこう
秋風や漆麗し二天門	東　　狼
天高しやがて超新星爆発	林　ひとみ
爽籟や漆新たに二天門	山中　裕子
みほとけは一寸八分街に秋	湯澤喜久雄

〈当日上位五句〉

水平に秋が来ている伝法院	石口　　榮
木の家に木の音秋の深みゆく	栗原　節子
浅草寺往生際の悪い残暑	石口りんご
二天門ぬけて帰燕の風に乗る	栗原かつ代
仲見世の江戸柄マスク秋の塔	安藤　利亮

◇令和４年度定時総会　令和４年３月１２日（土）

文京シビックセンタースカイホール

今年は来賓の臨席はご遠慮頂き、３８名の参加。懇親会は中止。議長に榎並恵那氏、副議長に古寺ななえ氏を選任。令和三年度事業報告、決算報告、監査の承認及び令和四年度事業計画、予算案、役員推薦の件など諸議案はすべて原案通り可決。

また、令和５年５月２７日に都区協創立４０周年記念大会を行うことが山本会長より報告された。

休憩後、恒例の一句持寄り句会に入った。

〈当日上位五句〉

日本語の素数のリズム麦を踏む	西本　明未
逃げ水を追い越しそうな靴選ぶ	石口　　榮
三月の黙祷時間空けておく	石口りんご
陽炎のへそのあたりが震源地	山本　敏倖
地虫出づ声をあげねば叫ばねば	青木　栄子

◇春季吟行会（通信句会）

令和４年５月１０日　谷中周辺を吟行、後日通信にて投句・選句。５３名参加

〈上位５句〉

散文的に歩いて路地のところ天	山本　敏倖
夕焼だんだん二段とばしに五月来る	増田　萌子
墓守はあまたの巨木夏の蝶	五十嵐秀山
どの坂を行くも谷中の若葉寺	広田　輝子

もう少しこちらに居ます娑羅双樹　　加藤千恵子

◇高田馬場句会　年４回

令和３年７月６日・１０月５日・令和４年１月１１日・４月５日に実施。各回人数制限を設け２５名ずつ参加。

◇スクランブル通信句会（新企画）

令和４年２月より隔月偶数月に新しく開催。都区協会員以外の投句歓迎。２月、４月、６月各４０名参加。

◇各ブロックの行事

Ａブロック吟行会　令和４年５月２７日 飛鳥山公園３５名
Ｂブロック吟行会　令和４年７月２９日 田園調布せせらぎ公園･多摩川台公園（予定）
Ｃブロック通信句会　　令和３年１１月１０日９６名
Ｄブロック通信句会　　令和３年１０月３０日５９名

◇会報発行

年４回定期刊行　第１８７号～第１９０号

（長谷川はるか）

東京多摩地区

会長　吉村春風子

◇第３９回東京多摩地区現代俳句協会俳句大会

令和３年１１月６日（日）　コロナ禍により紙上開催。
投句者７８名　投句数４０４句

（大会賞）

磨ぎ汁をゆっくり流す敗戦忌　　平山　道子

（入賞・上位 10 句）

保育所に灯る一室ちちろ虫　　み　ど　り
秋の灯の一つに帰る杖の音　　下田　峰雄
蜩や鼈甲飴が透きとおる　　髙野　公一
縄文の雨の匂ひに蓮ひらく　　永 井　　潮
旧姓に戻りましたとサングラス　　関戸　信治
空蟬や誰も戻って来ない道　　國分　三徳
少年は脱皮の途中春休み　　秋山ふみ子
抽斗から取り出す翼星月夜　　杉本青三郎
やさしさを形にすれば秋桜　　佐々木克子
未亡人とはひどい言葉ね沙羅の花　　松元　峯子

◇秋の吟行会

中止

◇令和４年度定時総会及び陽春句会

令和４年４月９日（土）武蔵野スイングホール
総会・陽春句会を開催。懇親会は中止。投句者４３名

（入賞句）

雛あられ手に乗るほどの幸でよい　　吉村春風子
春灯や指が旅する地図の上　　長野　保代

鉛筆にかすかな木の香日脚伸ぶ　飛永百合子
春の雪むかしと昔すれちがふ　清水　清子
戦車ごと包んで飛ばせシャボン玉　石橋いろり

◇初夏の吟行会

令和４年６月１１日（土）滄浪泉園とはけの道
参加者２５名
（入賞３句、入選７句）

（入賞句）

清水汲みしばし言葉を洗いけり　松元　峯子
人恋ふや暗き森より紋白蝶　根岸　操
新緑の深き黙切る鳥の声　山本ひまわり

（入選句）

昏がりへ誘ふ石段青葉風　秋山ふみ子
紫陽花や下れば昇るハケの坂　亀津のりひと
緑陰の歳月重し甃滑る　依田しず来
青楓千年絶えぬハケの水　稲吉　豊
射るやうな視線背後に木下闇　三浦　土火
武蔵野の名水育ち蚊に刺さる　武田　和明
梅雨晴れ間スニーカーを締め直す　石橋いろり

◇俳句研究会

令和３年１１月２７日（土）立川市こども未来センター
令和４年　３月２６日（土）立川市こども未来センター
令和４年　４月２３日（土）立川市こども未来センター
令和４年　５月２８日（土）立川市こども未来センター
令和４年　６月２５日（土）立川市こども未来センター

◇会報（年４回発行、平均１７頁）

「多摩のあけぼの」

（大森敦夫）

神奈川地区

会長　**尾崎　竹詩**

◇会報１５３号　令和３年９月発行（諸家近詠）

木瓜の実の歪ばかりが競ひ合ふ　渡辺　正剛
黒猫のペロリと舐めるひなた水　池田恵美子
虹立つや連想ゲームのやうに過去　渡辺　順子

◇第３８回俳句大会　令和３年１１月２８日中止（募集句のみ顕彰）

いつか捨てたボクが枯野で生きていた　山本　敏倖
天寿までまだ間のありて平泳ぎ　田畑ヒロ子
蜩やいつかひとりになるふたり　佐藤　久
露草やいつも涙はあたらしい　衣川　次郎
誰も知らない鳥雲に入りしあと　栗原かつ代
海をみるだけのちいさい秋である　平田　薫

鳥雲にひとは水辺に寄りたがる　髙木　暢夫
句読点どこに打とうか春の川　町野　敦子

◇会報１５４号　令和３年１２月発行（題詠　花の一句）

ボヘミアングラスいっぱい冬薔薇　吉村　元明
寂聴の愛絢爛と冬紅葉　田中　悦子
もののふの魂呼ぶやうに野紺菊　松浦　泰子

◇会報１５５号　令和４年３月発行（諸家近詠）

十二月時間指定のない荷物　岡田　恵子
あとがきのごとく始める新日記　小野　裕三
ライオンの瞬きのよう寒の入り　荻野　樹美

◇定時総会　令和４年３月２７日　横浜健康福祉センター

参加者　４８人　　一句句会実施
濡れてゐる木馬のせなか花菜風　佐藤　　久
樹木葬ならばこの轉れり　塚田佳都子
村ひとつ自然に戻り山笑う　菅原　若水
木の芽風てのひらやわらかく和解　なつはづき
紫木蓮ガレのランプに灯が点る　尾崎　竹詩
木の芽どき地球の傷は深まれり　石川　夏山
少女すぐ秘密と言うの山笑う　内藤ちよみ
木に触れて春の気配に耳澄ます　加藤　三眠

◇横浜吟行会　令和４年６月５日　横浜市健康福祉センター

横浜みなとみらい２１地区（日本丸、汽車道、大観覧車、赤煉瓦倉庫、ハンマーヘッド、女神橋、ぷかり桟橋他）　参加者６９名
講演　「句集をめぐる冒険」　なつ　はづき
シンデレラになれそうな街薔薇を買う　内藤ちよみ
観覧車待つ少年の捕虫網　堀口みゆき
みなとみらい未来は未完夏の雲　長谷川昭放
汽車道は恋人の道青葉風　尾澤　慧璃
白南風やアンクルトリスは赤いシャツ　横川はっこう
争わぬと決めて海月の自由かな　加賀田せん翠
夏空へ翼が欲しい観覧車　加藤かほる
舵の無き雲の行方や横浜（はま）梅雨入（つゆ）　武良　竜彦

◇会報１５６号　　令和４年６月発行（題詠　季節の一句）

肉親といふびしよ濡れに凌霄花　中岡　昌太
金盥に海投げ込んだ蛍の夜　中山　妙子
卓上のスマホ身震ひ半夏雨　吉村　元明

（芳賀　陽子）

甲信地区

会長　**佐藤　文子**

◇紙上句会（会員の作品を鑑賞し俳句表現の学習をする機会の提供。会員の半数が参加。）

今回は、総会の時の句会も無かったため選者を増やし実施。

第３４回。応募７５名、１５０句。選者に秋尾敏氏、大井恒行氏、神野紗希氏を迎えた。

秋尾　　敏	特選	蟬の去り己を探すごとき木よ	原田　宏子
大井　恒行	特撰	箱庭に戦車も壕も傷兵も	大野今朝子
神野　紗希	特選	風草のささやきばかり君の死後	小林　貴子
宮坂　静生	特選	変りゆく己が顔梅雨穂草	堤　　保徳
城取　信平	特選	鵠鳴くやとりとめもなき自画自讃	高橋佳世子
中澤　康人	特選	論語食らひ頭でつかの紙魚走る	宮坂　　碧
佐藤　文子	特選	滝落ちて一途に森の黙を解く	小澤　斉子
小林　貴子	特選	箱庭に戦車も壕も傷兵も	大野今朝子
窪田　英治	特選	八月やマンゴー色の灯が点り	一志貴美子
島田　洋子	特選	八ヶ岳岸壁に干す登山靴	斉藤文十郎
久根美和子	特選	楸邨よ兜太よ蟇の聲ひびく	西村はる美
古畑　　和	特選	楸邨よ兜太よ蟇の聲ひびく	西村はる美
青木　澄江	特選	解せず帰る医者の早口ジキタリス	荒井　民子
にしむら美	特選	白桔梗ふふむは言葉溜めてをり	吉池　史江

◇会報発行（会の運営等の情報を会員に提供）

令和３年９月１５日 第９８号発行。紙上句会の結果発表。

令和４年７月８日 第９９号発行。紙上総会（令和３年度 事業報告、同収支決算報告、会計監査報告、令和４年度 事業計画〈案〉、同予算〈案〉、同役員）

◇定時総会

例年年度末に開催していたが、コロナウィルス感染防止のため、昨年に引き続いて中止とし、会報に前年度事業報告、収支決算報告及び監査報告、本年度事業計画、収支計画を提案。通信により採決。同時開催予定だった俳句大会も中止。尚、今年度の地区会費は半額の１，０００円とした。

◇第２９回吟行会

令和３年９月２５日（日）に諏訪地域で予定していたが、昨年に続きコロナウィルス感染防止のため中止となった。

（窪田　英治）

新潟地区

会長　清水　逍径

◇機関誌「現代俳句にいがた」第１３号　８月１日発刊

会員の投句参加率は８６％、作品中心の機関誌として定着。

◇「いちにち吟行会」　１０月三条地区で開催予定を中止

◇「事務局だより」発行

第７２号（令和４年１月）、第７３号（令和４年５月）

◇令和４年度定例総会　３月２１日三条市で開催

２６名出席。令和３年度行事・会計・会計監査・会員異動等の報告、令和４年度行事計画・役員の異動について審議。承認。

◇第３０回「にいがた俳句フェスティバル」　３月２１日開催

総会に続き６６名が出席して開催。事前投句の応募は２７０名から１１９４句。講師・講評は石寒太先生。演題は『コロナ禍の俳句生活』。席題は『「か」と読む漢字。但し季語は不可』。

［兼題の部、会員上位入賞句］

屋敷蛇残して家を売りにけり　山口　冬人
和紙を揉む音とも夜のささめ雪　長部多香子
さくら隠しのころに行きたき妻の辺に　安澤　静尾
粉雪や真昼淋しき町の川　司　雪絵
煮凝や夢もうつつも怒濤音　水野　宗子

［席題の部、会員上位入賞句］

現し世の干戈の響き冴返る　八木　進
産見舞一荷は母の草の餅　米山　節子
帰る鳥河岸段丘越えにけり　清水美智子
冴返る鍛治町火床の火が真つ赤　清水　逍径

◇「いちにち吟行会」　６月６日開催

長岡市の雪国植物園を吟行。参加者は１９名。

万の葉に万の雨音青楓　袖山　リヱ

◇通信句会

３句投句、１０句選（内１句特選、選評記載）

第１０回　６～７月　４１名参加
塗り上げし畦一本はわが背骨　成海　靜
川一本夕焼け色の帯となり　成保　房子

第１１回　７～８月　３８名参加
鎌傷も草傷もあり日焼けの手　成海　靜

第１２回　９～１０月　３７名参加

第１３回　１～２月　４２名参加
雪霏々と白は重たき色になる　袖山　リヱ

第１４回　３～４月　３５名参加

第１５回　５～６月　３７名参加

（佐藤　彬）

富山地区

会長　**森野　稔**

◇三役会　１月６日　５名出席　定期総会議案の検討

◇役員会

８月８日　役員会　２０名出席
秋季吟行俳句大会の取止め決定とジュニア俳句大会実施終了の決定。
第３１回北陸現代俳句大会を２０２３年5月２０日（土）開催予定と決定。
１１月８日　役員会　２０名出席　秋季吟行俳句大会（予定９月２３日）の取止めの経過報告　２０２３年第３１回北陸現代俳句大会の基本方針決定。
４月１６日　役員会　１９名出席　第３１回北陸現代俳句大会実施計画案の決定秋季俳句大会実施計画の決定。　富山県現代俳句協会３０周年記念事業基本計画の決定。　２０２３年からの新事業計画立案と会員増加策。

◇総会及び春季俳句大会取止めに伴う紙上審議及び大会

３月～５月　２０２１年度の事業及び収支決算の報告　２０２２年度の事業計画及び予算案の承認

・春季俳句大会　投句数　９７　投句者互選

【入賞】

天	老犬と分けるアンパン日脚伸ぶ	吉塚三津枝
地	日本海丸ごとすする鮟鱇鍋	野坂千佳子
人	心にも杖を一本桃の花	柄沢　恭子

【入選】

月光を集めて武器となる氷柱	川辺智惠子
折鶴を添へて病食雛の日	久﨑富美子
大試験終え駅前の大判焼	福島やす子
理科室の空の水槽春愁	吉田　久夫
歩かねば発見はなし春帽子	堀　智恵子
兎小屋覗きつつ去る卒業子	小池　弘子
鳥帰る池はのっぺらぼうとなる	中　静子
スニーカーの結び目固し新学期	飛世　峰子
耕しの腕に昭和の来てゐたり	八尾とおる
半生を昭和に生きて大根干す	河岸　佳子
恙なく朝餉のめざし左向き	飯田　悦子
草の芽や卒路を生きるスニーカー	中島　三枝
戦争もコロナも知らず冬かもめ	漁　俊久
喪の家に赤子の家に雪の降る	河合　彰
春愁をそつと置き来し地下茶房	山下久美子
姉逝ったお手玉春の宙に舞う	坂田　紀枝
春めくやなかなか切れぬ長電話	布本美知子
海鳴りを呑んで一夜に雪積る	吉田　憲子
肩甲骨十ミリ下げて春の街	森沢恵美子
皹の一番風呂といふ痛み	高木　博子
大根煮る明日といふ日を信じつつ	久保美智子
友来たるつばくろ来たるあたりから	玄葉　志穂
床屋より帰り饒舌山笑ふ	池﨑　悦子
好きな色後に残す子雛あられ	氷林　紀男
蕗の薹公民館の調理室	石田　英子

◇第１５回ジュニア俳句大会表彰式

１１月８日　７０名出席

・富山県現代俳句協会会長賞　大賞

席がえは一番後ろまど青葉　　高岡市立伏木小学校４年　舟本　篤史

・富山県現代俳句協会会長賞　準賞

炭酸のように消えてく夏休み　南砺市立南砺つばき学舎８年　東英　里香

・富山県現代俳句協会会長賞

スポイトで採っておきたい夏の空　南砺市立井波中学校３年山崎　結加

天の川星が流れるすべり台　　氷見市立灘浦小学校５年　北鹿渡唯奈

きんぎょたちえをかくようにおよいでる

魚津市立星の杜小学校６年　山崎　莉音

◇第３富山県現代俳句協会賞発表　２月

・富山県現代俳句協会賞　　爪の行方（１５句）　森川　敬三

古着屋のジャンパーそこに居るような

午前五時万年筆の冷たさよ
歳晩の切りたる爪の行方かな
・同　準賞　秋闌ける（１５句）　久保　俊一
手から手へ微熱の移る水蜜桃
Ｏ型と記する秋夜のヘルメット
烟るごと老いたまう母むかご飯
・同　可動橋（１５句）　吉田　憲子
潮風に羽根ふくらませ雀の子
骨拾う児に箸長し蟬時雨
男の子揚羽の国を見たと言う

◇会報発行

５６号発行　７月１日　　５７号発行　１２月１６日

◇北陸現代俳句協会連絡会

１２名出席　４月２９日　第３１回北陸現代俳句大会実施案の決定　会員増加策の検討。

（森川敬三）

福井地区

会長　中内　亮玄

◇第６回福井県現代俳句秋季大会

令和３年９月１８日結果発表（通信制）
参加者３２名　投句２１８句

特　選（宇多喜代子直筆色紙）５点
この道と決めて急がずかたつむり　蜂谷　澄江

入　選（宇多喜代子句集『森へ』）３点句以上
端居して記憶の底へもぐり込む　中山　慶子
謝れば済む事なれど山椒の実　山田　冨裕
サーファーは北斎ほどの波を待つ　髙石まゆみ
水落し福井平野の風入れる　髙石まゆみ

佳　作（賞状）２点句・投句順
秋刀魚焼く海の痛みを聴きながら　横川　一子
空缶はちちろ一匹分の闇　塩谷美津子
霧の街哲学的と思いけり　塩谷美津子
ガラス拭く僅かな涼気見えてくる　河口　花芯
遠くなる昭和　八月の風澱む　田中　哲夫
露草や胸中にある花ことば　中田　良一
ストローで吸いあげてみた話し　久保ふみ子
むりやりに背筋を正し炎天へ　西又　利子
かなかなや仏間に生きる少年兵　前川　康子
満員の紫陽花ゆるやかに錆びて　松島　可奈
秋霖や句集に偲ぶ師の姿　佐藤　節子
夏草や親しき人の住居跡　田島　惠子

宇多喜代子特選

枝涼しげ花涼しげに百日紅　　中内　亮玄

＊特別選者に宇多喜代子先生を招き、選考委員７名の合計点数で競った。良くも悪くも１点の作品が多い大会となり、２点以上を佳作、３点以上を入選とした。コロナにより、またもや通信制の大会となってしまったが、宇多喜代子先生のご厚情により、充実した大会となった。

◇福井県現代俳句協会報４１号　令和４年２月２０日発行

役員挨拶・令和３年度大会事業報告・会員作品等

◇福井県現代俳句協会　総会

令和４年２月２６日（土）１０時

福井県民活動ボランティアセンター

参加者　２０名（委任状２４名）

小山柴門副会長の開会の辞、黙祷の後、会計報告、事業報告、続いて中内亮玄会長より今年度の行事案、会計案が出され、全会一致で可決した。本年度の春季大会は選考委員にて選句、秋季大会は互選にて開催の予定。

県の現代俳句協会賞と並び、新企画として、６年間１２大会の皆勤会員に表彰状が授与された。

役員改正について、北陸現代俳句大会開催の為に任命された副幹事は令和３年度一杯で解任。また、会計の山田冨裕氏と幹句会幹事の水上啓治氏が退任された。新会計に髙石まゆみ、新幹事に山本正雄氏、津田道代氏がそれぞれ任命された。その他は留任。春木美智子幹事の閉会の辞にて終了。

◇第６回福井県現代俳句協会賞　西又　利子

◇福井県俳句大会皆勤賞（福井県主催の過去６年間全１２大会）

塩谷美津子・西又利子・山田冨裕・石田秋桜・村田淑子　以上５名

◇第６回　福井県現代俳句春季大会

日時　令和４年５月２８日（土）

会場　福井県民活動・総合ボランティアセンター

参加者　４１名　投句２４６句

選考方法　県内７名の選考委員による。

特　選

母で無き妻でなき日のサングラス　　前川　康子

入　選（以下、合計点の順に）

行き先を決めず飛び出す鳳仙花　　中山　慶子

水打ちて少し地球を落ち着かす　　髙石まゆみ

鍵束は孤独の重さ薄衣　　塩谷美津子

佳　作（合計２２点まで）

少年は全身酸素今朝の秋　　横川　一子

吹き込んだ嘘がはじけるシャボン玉　　津田　道代

その真意聞きたくて脱ぐ夏帽子　　西又　利子

球児等の闘志は明日へ雲の峰　　藤坪　憲雄

空蟬のしっかりこの世見た眼　　白﨑寿美子

寝袋の胸をおどらす星降る夜　　中田　良一

絵手紙へ戻るつもりの毛虫です　　山田　冨裕

（中内亮玄）

静岡地区

会長　　**滝浪　武**

◇静岡県現代俳句協会俳句大会

令和３年８月２８日(土)、静岡市の「あざれあ」にて開催予定であったが、静岡県へのコロナ緊急事態宣言発出により中止とし、紙上での発表のみとした。

応募者：２９名　　投句総数：１２６句

表彰：協会賞１名　優秀賞４名　秀作１１名

協会賞

白シャツの袖まくりあげ兜太くる　　原　百合子

優秀賞

逢いにゆくあの一本の山桜　　滝浪さち子

麦酒酌む縄文人のやうに座し　　花房　なお

大夕焼火傷しさうな風見鶏　　東城　保子

坂多き街多感なる夏帽子　　滝浪　武

◇第１２回静岡県現代俳句大賞

令和３年８月２８日（土)、静岡市の「あざれあ」にて表彰式を開催予定であったが、俳句大会同様対面の集合を中止とし、紙上での発表として、「作品集」を参加　者に送付した。

応募者：２６名（応募作品は１編１０句）

表彰：大賞１名　準賞３名　奨励賞２名

大賞「神も仏もない」　尾内　以太

代表作　虫すだく二人の祖父がやつて来る

貝殻は砕けに砕け鰯雲

準賞「陽炎へ」　越川　都

代表作　陽炎へナウマン象の消えゆけり

準賞「ヒトとして」　渡邊　弘美

代表作　母という衣を脱げばもう蜻蛉

準賞「青田風」　田中由美子

代表作　青嵐産声高き児の来る

◇静岡県現代俳句協会中部文学散歩

令和３年１１月１３日（土）に実施予定だったが、新型コロナ感染拡大のため中止とした。

◇令和４年度静岡県現代俳句協会定期総会

日時：令和４年３月１１日（金）１３時３０分～

場所：静岡市　「あざれあ」

内容：①令和３年度事業報告・会計報告

②令和４度度事業計画・会計予算　他

新型コロナの状況を考慮し、全員が集合しての総会開催は回避することとした。そして、当日出席可能な役員に加え、委任状等により決議および報告を行った。

当日出席者及び委任状の数７３名（会員数９３名)。

総会終了後の一句会を紙上句会にて行った。

一句会互選結果（上位）

産声は年の始めのファンファーレ	鈴木　邦子
晩鐘やゆっくり生きる冬木の芽	渡邊　弘美
肩の力抜けといわれても大寒	滝浪さち子
龍の玉地球の色を発しけり	松本　重延
梅を見ているというより空の青	永井千恵子
探梅行生きる分だけ朝新し	新庄　佳以

◇会報発行　　９月（１２９号）　１２月（１３０号）　４月（１３１号）

内容：巻頭随想、行事報告・予定、諸家近詠、近詠一句鑑賞、エッセイ、わが俳句工房等。

（つげ　葉子）

東海地区

会長　　永井江美子

◇第２３回東海地区現代俳句賞〈令和３年１１月１１日・ウインクあいち〉

総会終了後より、令和３年９月末日までに寄せられた作品３６編（未発表２０句）について、会長が委託した八人の選考委員が審査。次のとおり決定。

俳句賞　上村えつみ　「麦青む」
麦青み次々風の繋がりぬ
白菜を今年の藁で括りけり

奨励賞　朴美代子「冬ざくら」
今日も過去泣く風暮るる枯野原
与語孝子「蝶の時間」
森深く入りゆく蝶の時間かな

佳　作　福林弘子「母の日」
春愁の味なきガムを噛んでをり
ひらの浪子
懐にアンネの日記冴返る

◇第１７回現代俳句東海大会〈令和３年１０月１７日大会は中止〉

応募総数１０４２

大会賞	ポケットの無き淋しさや夏衣	藤森　貞子
秀　逸	縄文の土器のしずけさ木の実落つ	ひらの浪子
	鯊釣のバケツに空の深さかな	水野　巨海
	言葉とは危うき道具広島忌	伊藤　政美

秀逸１５句・佳作２０句

◇令和４年年度総会・新年俳句大会〈令和４年２月２０日大会中止・総会のみ少人数で、四日市地場産業振興センターにて〉

総会議案審議全て承認される。新年大会応募総数３５６句

会長賞	再発を告げられし夜のジングルベル	近藤　綾子
秀　逸	さしあたり生きるつもりの障子貼る	野崎　妙子
	少年の黙の深さや冬木の芽	宮地　瑛子
	雪まみれにて戻りきし研かな	近藤　好子

秀逸６句・優秀７句・佳作１３句

◇吟行句会　〈令和４年５月１５日・城下町犬山〉

３年ぶりの吟行会、芭蕉句碑のある鵜沼宿や鈴木しづ子ゆかりの城下町を散策。

大会賞	三叉路の一つは城へ青芭蕉	大見　春江
高点句	学舎のからたちの花しづ子の忌	宮地　瑛子
	城下町知りつくしたる夏燕	八木茂都子
	水音も葉擦れの音も五月かな	平賀　節代
	くたと伏すからくり人形山車の底	神田ひろみ

◇青年部のジャズ句会・オンライン句会

ジャズ句会

流星群海に落ちたら魚になれ	田中の小径
濁声のマック・ザ・ナイフ冬に入る	太田　風子

オンライン句会高点句

冬空へ跳ぶ少年の片ピアス	菊山　千月
背もたれの木を軋ませて大試験	岸　快晴
ぶらんこの振れる限りの塀の外	岡田真由美
触れた手に空のつめたさ夏みかん	千葉みずほ
回覧板なんじゃもんじゃの家へ置く	後藤麻衣子
墓石屋の名の無き墓石春の夕	朱　夏
蚊を殺めて自動蛇口に差し出す手	後藤麻衣子
昼寝子のまた笑ひをる小指かな	福林　弘子
オムレツのしずけさ戦車そこを通る	大西　健司

青年部主催吟行会〈令和４年７月２日〉

吊ればすぐ川風つかむ軒風鈴	杉山　悦子
夏がすみ未来都市めく河口堰	平賀　節代
外濠は海に続けり梅雨の明	川合いつ子

◇鈴木しづ子顕彰いのちの俳句大会協賛

第４回「大学生俳句選手権」、９月４日名古屋市からオンライン配信
ゲスト神野紗希氏・会長始め協会役員が選者を務める。

グランプリ　あと一分ホームに二人夕焼けて　向井由衣子〈愛知芸術大学〉

これにあわせ次世代へ俳句を繋ぐ取組として「鈴木しづ子小中高生俳句大会」を開催応募総数３０５０。

大賞　小学生の部

さくらさくらさくらさいたらクラスがえ	青木　颯太

中学生の部

遠雷やプレパラートに罅微か	水野　結雅

高校生の部

校章に陽の差しており受験生	杉浦　玄騎

◇理事会

令和３年１１月１１日　名古屋市ウインクあいち

◇会　報

令和４年　　３月３１日　発行　〈７５号〉
令和４年　　３月３１日　発行　〈７６号〉

（平賀節代）

関西地区

会長　久保　純夫

◇４５回句集祭

コロナ禍で中止

◇令和３年度総会

令和４年４月２３日（土）午後１時より、大阪市のヴィアーレ大阪にて、関西現代俳句協会の理事会・総会・第９回関西現代俳句大会の表彰式・懇親会を開催しました。コロナ禍続きで久保純夫新会長になってから、初めての総会となりましたが、４６名の会員の出席と２６５名の委任状により総会が成立。西谷剛周事務局長の進行で、令和３年度の事業・決算報告に続き、令和４年度の事業計画などとどこおりなく承認されました。また、令和６年度には現代俳句協会の全国大会が関西で開かれることもあり、若い８人の新理事も誕生しました。

◇第９回関西現代俳句大会

第９回関西現代俳句大会を実施。募集期間は１月から２月末日。１３５人から８４６句の応募があり、令和４年４月２３日の関西現代俳句協会の総会の席で、表彰式を行いました。

大会賞

春風や即興劇の終わり方	池田　奈加

秀逸賞

日の匂ひ星の匂ひの寒天干す	北村　峰月
戦争の泡を見ているラムネかな	久保　純夫
夜桜に紛れ込んでる宇宙人	横田　明美
冬の日も人も過客の百度石	米崎璃津子

入選句

堕天使の羽舞い落ちて冬の蝶	赤窄　　結
あの家もこの屋も一人虫すだく	芦田伊津子
闇未だ傷つきしまま東北忌	あめみちを
天空の鼓動伝へる凧の糸	井上かほる
海照れば光を返す蜜柑山	太田美喜子
唇をキュッと結んで卒業す	片岡　宏子
河豚を食ぶ言葉に毒のある人と	蔵田ひろし
地球儀は飢餓の子知らず秋の夜	田中　公子
手毬唄をはりはみんな死ぬ喜劇	福田　　漣
足跡はやがてひとつに冬の浜	満田　三椒
透明になるまで洗ふ大根かな	夢乃　彩音
脳天から爪先までがところてん	米岡　隆文
掃き寄せる木の葉の嵩や死は唐突	渡邉　美保

◇句会

上方きめら句会　　参加人数　２２人　（結果はホームページに掲載）

７月２５日にZoomによる合評　参加者１１名

かみがた通信句会　１１月７日　参加人数１１２人名

応募句　２２４句（結果と選者選評をホームページに掲載。）

◇青年部の活動

新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けたが、今年度は事務局が主催したオンライン句会の運営をサポート、オンラインの後援会、勉強会の開催、ホームページ記事の充実などオンラインでの活動を充実させた。また「センバツ！全国高校生即吟俳句選手権」への協力や、『現代俳句』誌翌檜篇への寄稿、協会 HP の企画として「地区会長に聞く！」インタビューへの協力などを行った。

◇関西現代俳句協会会報の発行

第５２号会報発行　令和３年５月１５日発行
第５３号会報発行　令和３年９月１０日発行

（久保　純夫）

鳥取地区

会長　植垣　規雄

◇月例句会

第３５５回～第３６６回まで毎月第１日曜日に開催。

◇会報発行

令和３年１１月第４９号、令和４年６月第５０号を発行。

◇令和４年度幹事会

令和４年１月９日（日）総会への付議議案及び報告事項につき原案を協議

◇令和４年度総会

令和４年２月６日（日）鳥取市「高齢者福祉センター」に於て開催。次の議題につき審議され承認された。

１.令和３年度事業報告及び収支決算
２.令和４年度事業計画及び収支予算
３.役員の改選及び規約一部改訂
４.第４０回中国地区現代俳句大会・総会について
５.その他　（在籍会員の確認）

終了後２月定例句会
作品抄

少しだけ広げる歩幅春立ちぬ	足立　六歩
子の役と戸口鰯の頭挿す	池澤　子鰯
肩の凝り告ぐる床屋や春立ちぬ	足立　六歩
つぶやきのように零れて雪しずく	岡　みずき
春立つや阿修羅座像のほの明り	坂出　　徹
新雪の登透けて春兆す	滝本　　勤
古傷のごとく残雪櫓跡	富田　信典
「ただいま」といふてもひとり日脚のぶ	中田　七重
玻璃越しに手を振る母や寒椿	藤原　博志
立春の包丁軽き厨かな	松島美佐子
冴返る二重マスクの肩すぼめ	渡辺をさむ

◇第４０回中国地区現代俳句大会・総会

令和４年６月１２日(日)・１３日(月)

岡山県の当番で、倉敷市の「倉敷アイビースクエア」で開催予定であった

が、新型コロナウィルス感染防止の観点から紙上大会となった。

鳥取県関係入賞作品

《大 会》

中国地区連絡協議会賞

春愁をゴシック体に変換す　岡　みずき

秀逸賞

髪切ってランナーになる夏初め　滝本　勤

麦の風どの穂も光こぼしつつ　寸村　紀子

久保純夫賞

補聴器に心音混ざる春の雨　滝本　勤

鳥取県現代俳句協会会長賞

春愁をゴシック体に変換す　岡　みずき

《勉強会》

高得点作品

婿どのと一献まゐる雛の夜　中田　七重

封印を解いてしまおう花菜風　岡　みずき

早蕨に首長竜を見つけたり　藤原　博志

目借時アイドルがみな同じ顔　足立　六歩

島根県現代俳句協会会長賞

手をつなぐやうに形見の手袋を　中田　七重

岡山県現代俳句協会会長賞

封印を解いてしまおう花菜風　岡　みずき

（**岡　みずき**）

島根地区

会長　**月森　遊子**

◇令和３年度 定期総会

コロナウイルス感染防止のため、紙上審議に変更

◇会報発行　令和４年３月　第４６号発行

〔諸家作品抄〕

銀漢を渡れば鈴の音聞こゆ　柏谷　千恵

文化の日とまとハウスでモーツァルト　黒崎　柊二

新年やいつもの鳥の孤影あり　黒崎李青二

膨らむ柴犬秋麗の玄関　蹴　衣

ふるさとを捨てし悔ふと冬すすき　月森　遊子

村ひとつ闇に沈めて虫すだく　野津あつし

病廊をあふれて来るや銀杏黄葉　深田　地絵

月食の空の明かるみ狐鳴く　福田　玲子

空欄を埋める今年の曼殊沙華　村上　和枝

舞台移す幕を引きゆく冬夕焼　目次　翠靜

かなしみは羽化を遂げけり黒葡萄　森田　廣

コスモスと距離遠くして上り汽車　安達美那子

猫の毛繕い勤労感謝の日　伊藤　晃彦

澱となり沈みし過去の初時雨　梅津　博之

◇第４０回　中国地区現代俳句大会

（紙上大会として実施）
と　き：令和４年６月１２日（日）
ところ：岡山県倉敷市／倉敷アイビースクエア
〔入賞作品〕島根県関係
〔大　会〕
中国地区現代俳句大会賞
春兆す湖が力を抜き始む　野津あつし
中国地区連絡協議会賞
行軍の音は空耳黄砂降る　黒崎　柊二
〔勉強会〕
勉強会高得点句賞
ふるさとは野のふところや蓬摘む　月森　遊子
大会作品抄
死んだふり巧い少年山笑う　伊藤　晃彦
静寂をたくわう鐘や寒の濤　森田　廣
冬夕焼湖の抒情詩ひろげゆく　野津あつし
休診とあり花冷えの診療所　黒崎　柊二
蕗味噌や昔も戦ありました　柏谷　千惠
青竹に炎の快楽一月尽　梅津　博之
春立つ日泡を飛ばして卵溶く　月森　遊子
犬ふぐりここでは息を深く吸う　村上　和枝
（**黒崎　柊二**）

岡山地区

会長　**木村ゆきこ**

◇岡山県民文化祭参加　第２６回岡山県現代俳句大会

令和３年１０月３１日（日）岡山県ゆうあいセンター。大会参加者２４名。

おかやま県民文化祭賞
白玉つるり月蝕を見そこなふ　秋岡　宣子
岡山県知事賞
蔵町や路地の幅だけ秋の空　花房　典子
岡山県議会議長賞
幾万の沈黙の椅子夏五輪　沼本　養卯
岡山県教育委員会教育長賞
命ある者は帰るな門火焚く　難波　正夫
岡山県現代俳句大会賞
彼の世へとつながりそうな蜘蛛の糸　薄　和子
書き込みの多き楽譜や蟬しぐれ　中野　澄子
もう少し生きる途中の桃食べて　木村ゆきこ
荻の風村で一軒赤子泣く　目賀　紀子
惑星の昼夜を借りる梅莚　髙村　蔦青
枝豆のおほかた夢も青いはず　前田　宏
九月かなミシン目ゆっくり切りはなす　佐藤　千恵

稲の花父の手紙の軽さかな　小西　瞬夏
きすぎの欲まだ失せずホタル追う　片岡　陽子
打水や四十五億年の地球　永禮　宣子
八月の耳の底では「海ゆかば」　佐野　由魚

◇第２２回吟行会

令和３年１１月１４日（日）岡山市　犬養木堂記念館にて開催。
参加者２３名。
〔主な作品〕
木堂の太き恕の字や石蕗あかり　小峠　幸枝
照紅葉話せば解る人と会う　國富　節子
身に入むや木堂の言・永久に　右手　采遊
木堂のステッキくるり小鳥来る　土屋　鋭喜

◇令和４年度定期総会

令和４年４月３０日（土）　岡山県ゆうあいセンター。
通常総会は委任状を含め５７名の参加により承認。持寄り句会を実施。

◇第４０回中国地区現代俳句大会（紙上）

令和４年６月１２日（日）
入賞作品（岡山県関係のみ）
優秀賞
兜太汀子春星二つ生まれけり　國富　柿方
春キャベツ明日はフレアスカートで　永井麻紀子
秀逸賞
タンポポや大地へ降ろす嬰の脚　髙村　蔦青
島の春乗せてフェリーの着岸す　秋岡　宣子
堂守の大き足跡涅槃雪　前田　宏

◇会報「現代俳句岡山」年２回発行

（**前田　宏**）

広島地区

会長　**川崎益太郎**

◇第３０回ヒロシマ平和祈念俳句大会　令和３年７月１７日

新型コロナウイルス感染予防のため紙上大会として開催。
全国各地から投句者２２９名、投句総数８９１句（小中学生分９００句を除く）。

【広島県知事賞】
八月を絞れば黒い雨になる　福岡県大宰府市　山本　則男
【広島市長賞】
八月が記憶の底で焦げている　広島県福山市　古本　もね
【広島市教育委員会賞】
八月の度に遺影の若くなり　岡山県岡山市　小峠　幸枝
【現代俳句協会長賞】
黙禱の影も直立炎天下　秋田県秋田市　小林万年青
【広島県現代俳句協会長賞】

小さき手の大きな祈り広島忌　　山口県周南市　　吉浦百合子

【中国新聞社賞】

音がね、と花火に耳に塞ぐ祖母　　東京都文京区　　遠藤　玲奈

【小中学生最優秀賞】

いれい碑の周りに光る蛍かな　　中学１年　　山崎　蒼太

カレンダー八月六日に丸つける　　中学３年　　竹内　史弥

日傘ではふせげなかった放射能　　中学１年　　竹原　亜弥

鳥帰るそれぞれＶ型Ｗ型　　小学５年　　荒尾　快晴

◇定期総会及び俳句大会　　令和４年３月１９日

新型コロナウイルス感染予防のため紙上大会として開催。

投句数　２７２句。投句　者（６６人）。

総会は執行部提案議案等承認された。俳句大会の結果は、次のとおりであった。

【大会賞】

たわいなき会話を包む春キャベツ　　佐藤　悦子

【会長賞】

海図なき春眠という船に乗り　　林　　すみ

【秀逸賞】

写楽いて西鶴がいて喧嘩凧　　西　美惠子

木枯に掃き残されし朝の月　　西田　佳永

ふたつみつ不義理ふやして冬籠　　大塚　文枝

人生の余白干すごと布団干す　　川崎益太郎

二年をマスクの下に老いてゆく　　西田　佳永

◇第４０回中国地区現代俳句大会・総会　　令和４年６月１２日（日）

岡山県が当番で、岡山県倉敷市で開催予定であったが、コロナウイルス感染予防の観点から、紙上総会、俳句大会となった。投句数５６０句。

（広島県関係入賞者）

【俳句大会】

☆久保純夫賞

摘みしものごったに分けて長閑なり　　筈谷　美保

【勉強会高点句】

饒舌は時に失言亀鳴けり　　塚本みや子

昇降機静かに止まる春の月尽　　竹味千賀子

（**川崎千鶴子**）

山口地区

会長　**久行　保徳**

◇第３２回山口県現代俳句協会定期総会及び俳句大会

１　実施日　令和４年５月２９日

２　場　所　周南市文化会館

３　参加人４０名

４　俳句大会（投句数４１６句）

現代俳句協会長賞

子守唄途絶えし村に鶴来る　山根　志づ

毎日新聞社賞

野良猫の長々伸びる原爆忌　石田　満恵

周南文化協会長賞

ホーホケキョ母いて卵かけご飯　中塚紀代子

周南文学連盟会長賞

花種や籍をひとつに五十年　上重　石峰

山口県現代俳句協会長賞

毛虫焼く日毎仏を拝む手で　藤井　康文

引鶴の落した影に鍬を打つ　藤兼　雅幸

◇第２６回山口県現代俳句賞

「不死鳥」　保田　尚子（２０句より抜粋）

黴まとう聖書に命あふれだす

レノン忌の多弁なる眼と寡黙な眼

◇第３０回山口県現代俳句協会勉強会

１　実施日　令和３年１０月２１日

２　場　所　岩国市「サンライフ岩国」

吟行地　錦帯橋、吉香公園

３　参加人数１８名

４　上位作品

仰ぎみる五橋の背裏水の秋　野村みどり

下男部屋の上がり框や秋の蝶　上重　石峰

武士の貌で闊歩す秋の橋　橘　美泉

穴惑うことなき蛇のルビーの目　河村　正浩

その辺で曲がれば錦帯橋の秋　上石久美子

◇第４０回中国地区現代俳句大会

令和４年６月１２日倉敷市での開催予定を新型コロナウイルス感染防止のため紙上俳句大会として実施。

１　投句数５６０句

２　上位作品（山口県のみ）

中国地区連絡協議会賞

帯ぽんと二日の女でき上る　木村たけま

少年兵桜にされて征きしまま　藤井　康文

優秀賞

野も山も動詞でありぬ雪解水　山口　智子

佛の座少し座っていいですか　石川　芳己

翅とぢて天道虫に戻りけり　木村たけま

秀逸賞

菜の花や村中風になっている　藤井八重子

福笑い畳で死ぬってこんな顔　中塚紀代子

耕しの山より高く鍬を振り　河野　悦子

◇会誌発行

第８４号 令和３年８月３０日発行

第８５号 令和４年１月２０日発行

（平川扶久美）

徳島地区

会長　　上窪　青樹

◇例会

令和３年７月３１日（日）
会場　徳島県立文学書道館
　　コロナ禍により中止

◇第１８回夢道忌俳句大会

令和３年１０月２日（土）
会場　板野郡藍住町　総合文化ホール
参加者　４２名
最優秀賞
無骨なる石を置く墓烏瓜　　松家　京子
高得点句
裏木戸は浮土へ続く烏瓜　　髙木　閑人
夢道忌や夢道は今も藍住に　　安曇　統太
鰯雲夢はでつかい方がいい　　松家　京子
歳時記をめくる風の手涼新た　　二橋　満璃
烏瓜夢道の涙象りぬ　　上窪　青樹
コスモスや迷路の先に猫家族　　上窪　則子

◇吟行句会

令和３年１０月３１日（日）
コロナ禍により中止

◇忘年句会・懇親会

令和３年１１月２８日（日）
会場　ホテルクレメント　参加者２６名
☆船越淑子会長特選
縁とは句座にありけり年忘れ　　住友セツ子
☆上窪青樹副会長特選
帰り花時に記憶は嘘をつく　　井形　順子
☆今岡直孝副会長特選
さがしたる糸の切り口秋渇く　　吉岡えい子
☆青木慧幹事特選
文豪の美は乱調に雪ぼたる　　長町　淳子

◇写楽忌俳句大会

令和４年３月７日（月）
会場　徳島市内町公民館
コロナ禍により中止

◇総会・吟行句会

令和４年５月２９日（日）
会場　鳴門市大麻町　大鳥居苑　　参加者２９名

令和３年度の事業報告・会計及び報告並びに役員改選があり議案事項全て満場一致で承認され、新役員に顧問船越淑子、会長上窪青樹、副会長今岡直孝・二橋満璃、幹事大島宏昭・青木慧・安曇統太、会計山之口ト一、監事住

友セツ子、事務局長上窪則子、事務局明日侖と決まる。

☆選者の当日句

三百の仏燈暗しなめくじら	上窪　青樹
そら豆の黒くちびるの長きかな	今岡　直孝
新樹より仏像青き錆まとふ	大島　孝昭
影ひとつ山門くぐる夏つばめ	青木　慧

☆高得点句

賽銭は一円の音青もみじ	梅岡美沙子
抱きし子も白衣を着せて夏遍路	向井みちこ
木下闇神や仏の笑ひ声	明　日　侖
ミサイルにせめて草矢を放たむや	大島　孝昭
黒幕は山椒魚といふ噂	山之口卜一
仏像に微かな老化花は葉に	伊賀　信子

◇徳島県俳句連盟第５８回大会（募集句による）

表彰式は行わず賞状・記念品他を受賞者へ送付した。

現代俳句協会員の受賞者は次のとおり。

☆選者賞

大高翔選

梅雨湿りして城石に戻る青	奈賀　和子

上窪青樹選

蛍袋の中ですか外ですか	山田　絵里

☆俳句連盟賞

妻呼べば牛振り返る夏野かな	髙木　閑人
本堂の外陣百畳冴返る	原田　厚子
沈黙は神秘の時間蝉の羽化	松家　京子
柚子味噌や阿波弁鍋に転がして	吉岡えい子

（**上窪則子**）

香川地区

会長　**末澤　功**

◇通常総会

２０２２年度は、コロナが小康状態を見せ始めた頃、八月末日開催予定とするも、再び蔓延状態となり見送り、開催は未定のままとなっている。

言い訳にしかなりませんが、当県協会としては、長年にわたる市場基巳前会長の闘病生活も功を奏さず、面会すらできないままに、２０２１年８月に逝去。副会長は高齢の為すべてに参加できない状態、加えて、西野前事務局長の事故による急逝、ベテラン幹事も退会や逝去により、協会そのものの存在が危ぶまれる状態が続いている。会長を兼任している事務局長も、引継ぎは全然できておりません。『現代俳句年鑑』すら目にしたことが無く、今もって手探り状態です。総会をなるべく早く開催し、活動の基礎を再構築しなければと考えております。

（**末澤　功**）

愛媛地区

会長　**松本　勇二**

◇第３３回定時総会及び役員会

６月６日に子規記念博物館において開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため書面開催に変更した。

◇俳句大会

総会委任状に合わせて募集した俳句作品１２６句を特別選者１４名が選句し、高得点者を表彰した。副賞の図書カードを受賞者へ送付した。

最高高得点句

げんげん田父居て母居て兄も居た	梅岡ちとせ

高得点句

母の日や母になる娘が泣きにくる	松本　豪
風薫る手描きの地図の大きな木	神楽坂リンダ
子を諭す父の正座や小鳥来る	安藤　和子
紙風船畳めば時の沈黙す	本郷　和子
気高きはれんげ田に立つ父の鍬	門屋　和子
島いっぱい命の呼吸花蜜柑	小木曽富美子
春は曙やることあると亡夫帰る	大野美代子
朝礼の訓示簡素松の花	稲井　夏炉

◇通信交流俳句会の開催

本年で１２年目を迎えた。参加者２８名。年五回の投句と互選、年１回の合同句会を開催。活動成果を冊子にまとめて発行した。

◇会報の発行

コロナ禍のため発行が遅れたが、９月２０日に会報№３３号を発行し、全会員と関係機関へ発送した。

◇吟行会の開催

年１回開催で、県内の名所を巡る吟行会を３月に計画していたが、コロナ禍のため今年度も中止とした。

◇協会賞・新人賞の募集と選定

令和３年度　愛媛県現代俳句協会協会賞・新人賞」の募集したが応募なし。

（**和田幸司**）

福岡地区

会長　　**福本　弘明**

◇役員会の開催

令和３年７月１８日（日）小倉リーセントホテルで第１回役員会を開催。秋の吟行大会、福岡現代俳句３０回大会について話し合った。

◇福岡県現代俳句秋の吟行大会の開催

令和３年１０月３日(日)に、北九州市小倉北区の到津の森公園において秋の吟行大会を実施した。緊急事態措置が９月３０日まで行われており、解除後の初めての日曜日ということで、動物園は親子連れで賑わうなかでの開催

になりました。参加者はコロナ禍にあって１９人。フクロテナガザルの吠える声を聞きながらの大会です。当日の入賞作品は

天賞　秋天へ獣の叫び子の叫び　中村　和男
地賞　秋風を誘っておりぬ象の耳　山本　悦子
人賞　サルなんかになるんじゃなかった木の実降る　黒川　智子
秀逸　草の実の弾け新たな変異株　中村　重幸
水鳥はムー大陸の夢をみる　森　さかえ
縞馬の尻ふくぶくし新松子　田中　葉月
少子高齢忘れし秋の動物園　福本　弘明
象の目に映る人間秋日濃し　堀川かず子

◇福岡県現代俳句協会会報６０号の発行

令和３年１１月に会員からの投句、特別作品、エッセー、会員の句集紹介などを主な内容として発行した。

◇役員会の開催

令和４年１月３０日(日)に北九州市小倉北区の小倉リーセントホテルにおいて役員会を開催。総会、俳句大会の打合せを行った。

◇総会ならびに福岡県現代俳句大会の開催

令和４年３月１４日（日）１３時から北九州市の小倉リーセントホテルにおいて令和４年度総会ならびに第３０回福岡県現代俳句大会(後援　毎日新聞社・月刊『俳句界』)を開催した。参加者は３１名。

大会作品は３５６句の投句があり、そのうち大会賞を福本代表より、毎日新聞社賞は百留事業部長より、月刊『俳句界』賞を文學の森の寺田社長より受賞者に贈られた。

大会賞

親を看て夫看てやがてヒヤシンス　夢野はる香

毎日新聞社賞

竜の玉よきことのみを母に告ぐ　土田　利子

月刊「俳句界」賞

鮟鱇の心底までも捌かれる　中川屹城子

◇福岡県現代俳句協会会報６１号の発行

令和４年５月に発行。３月の総会の報告、俳句大会の結果報告と、会員の自由投句３句と、俳句あれこれというコメント、会員特作２０句、会員句集紹介などを内容とした会報を発行した。

（森　さかえ）

西九州地区

会長　前川　弘明

◇第６８回長崎原爆忌平和祈念俳句大会後援　　令和３年７月３１日

新型コロナウイルス感染症蔓延のため紙上開催となった。投句数７６４句。当協会会員の受賞は以下の通り。

募集句

長崎県議会賞

夏蝶の記憶ガラスの音が降る　藤澤美智子

長崎新聞社賞
　被爆七十五年『原爆俳句』上梓して重し　　横 山 哲 夫
優秀賞
　あの日の水凹むほど呑む蝶のいて　　小 山　 淑
優良賞
　ゴム跳びのあの子のかけら又八月　　小 川 裕 子

◇第１３回九州地区現代俳句大会

新型コロナウイルス感染症蔓延のため投句のみとなった。投句数８７２句。当協会会員の受賞は以下の通り。

九州地区現代俳句協会賞
　コスモスのいつもサヨウナラと揺れる　　倉田　明彦
佳作賞
　まるくなる背中で祈る終戦日　　小山　一歩
　恐竜展のスミレの鉢が咲いている　　前川　弘明
　空蟬の爪のはなさぬ無人駅　　小 山　 淑
　牛蒡ほつほつ煮つめキツネの来る背戸家　　小 山　 淑

◇西九州現代俳句協会総会句会　　令和４年３月１３日

長崎市(サンプリエール)にて１０名の出席を得て開催。　投句数４０句。

最優秀賞
　よろめいて百寿をめざす初笑い　　小山　一歩
優秀賞
　寒晴や土の匂いの風探す　　小川　裕子
　身辺に下戸ばかりいて餅を焼く　　長島富美枝
　地下水が噴き出す蛇口中村忌　　鳥井　國臣
優良賞
　陽来復エコーに２センチの胎児　　倉田　明彦
　遠汽笛奈良夫の皮ジャン見なかったか　　長島富美枝
　魂あまた宙に漂い花こぶし　　横山　哲夫
　コロナ禍や水より冷たい街灯り　　相川　文子
　おはようと手話の挨拶蟬しぐれ　　鳥井　國臣

◇会報の発行　　令和４年５月１５日

西九州現代俳句協会会報Ｎｏ．２５を発行

（**江良　修**）

熊本地区

会長　**加藤　知子**

コロナ禍の先行きが見えない状況下で、対面総会を開催できず。会長選出の時期だった為、会報にて他薦自選を呼びかけた上で承認を得るかたちで、加藤が会長２期目となった。

年２・３回のペースでの紙上句会を継続しており、毎回１３～１６名の参加がある。人は限られるが、各俳句大会への投句も積極的である。リデル、ライト両女史記念館から＜日時計と句集『日時計』展＞への協力依頼があり

有志で同記念館へ出かけ、同時に五高記念館へも吟行。句会は大学の一隅で行った。

両女史記念館からは、特別展開催中の今秋１０～１１月に同館内での句会開催要請が来ているので会員に呼びかけていきたい。会報発行も年３～４回を維持していく予定。

◇２０２２年度　現代俳句年鑑参加者の一句抄

薔薇の園七つの罪を美しく　青島　玄武
少年になり切る少女半仙戯　荒尾かのこ
頭上に芽吹き青空ばかりが残像　加藤　知子
不慮の死の空白　一閃燕飛ぶ　志賀　孝子
人の世の影を引きずる蝸牛　徳山　直子
雲の切れ間が哀しい虫のいるところ　中山　宙虫
菜の花の帯をたどりて君の逝く　萩瑞　　枝
この道を歩いてもいいわ花だいこん　林　よしこ
潮寒し「回天」若きら帰り得ぬ　右田　捷明

◇第１３回 九州地区現代俳句大会

〈優良賞〉
まっすぐな胡瓜こころが痛みます　萩　　瑞 枝

〈佳作賞〉
ときどきは叫びたくなる烏瓜　林　　紀 子

〈参加者一句抄〉
初秋のさらさら流る淋巴液　西村　楊子
ふるさとをたためば銀河からこだま　中山　宙虫
左心室カテーテルで見る立夏かな　右田　捷明
炎天ののこぎりを引く身の軽さ　西田　和平
向日葵の立ち枯れ仮面舞踏会　加藤　知子
水弾く茄子の体を拭いている　林　よし子
神の留守鬼の被れる人の面　吉良　香織
みぞおちに音の膨らむ虫時雨　徳山　直子
にんげんがこぼれるこぼれる萩に風　西口裕美子
夕焼けに染まり我が身を見失う　佐藤恵美子

◇第４３回 県民文芸賞

俳句部門〈次席〉　林　紀子
身の内の牡丹崩るる音を聞く
葉桜となりて祈りの生まれけり
寿命とは莢豌豆に問いかける
老人の眉間につづく夏怒濤
良夜かな今日いちにちの砂を吐く

◇第５７回　滔天忌俳句大会

〈地賞〉
革命と検索をする滔天忌　西村　楊子

〈佳作〉
七転び八起きのをとこ鷹渡る　徳山　直子
コロナ禍の三百五十句滔天忌　荒尾かのこ

（加藤知子）

大分地区

会長　有村　王志

◇概括

県協会は創立 32 年。地区会員の中には本部会員も含まれるが、地区会員のための協会として結成され、現在に至る。県協会の役員の中には当然として本部会員でないものも含まれる。

４年前の役員改選以来〈県協会を大きくしよう〉〈県協会の影響力を増そう〉を活動の基本に据えてきた。コロナ禍の逆風の中で厳しい活動を強いられてきたが会員の倍増化に成功し、現在はこの４年間に入会した会員が過半数を大きく超えている。今後は①旧会員と新会員の融和、②新会員の意欲を削がないための教育の充実、③コロナ禍でも県協会の影響力を増し会員獲得につなげるイベントの工夫などが課題である。

◇８月２９日（日）夏季勉強会

会場を確保し、参加者の受けつけが開始されていたが、７月末の状況を見て中止を決定。

◇８月３１日（火）句会報 14 号発行。Ａ４　１６ページ

※第１回雑詠句会結果発表及び第２回雑詠句会選句号

◇８月３１日（火）会報１２３号発行。カラーＢ５　１２ページ

※第２４回大分県現代俳句協会賞募集（締切１０月末日）

※今号より協会内学習の一環として俳句講座を開始。

今回は「季語について」

◇１０月３０日（土）句会報１５号発行。Ａ４　１６ページ

※第２回雑詠句会結果発表及び自選作品選句号

◇１１月１７日（水）幹事会（参加４名）

※役員会にはかる会員動向、活動報告、活動計画などを協議、決定。

◇１１月２３日（火）県協会賞の応募作品を集計し、各選考委員に送付。

※１９９７年以降最多の２３名が応募。

◇１２月１２日（日）役員会（参加６名＋オブザーバー１名）

※幹事会報告を承認決定

※協会賞選考委員の補充、副会長の補充について協議、決定。

◇１２月３０日（木）句会報１６号発行。Ａ４　１２ページ

※令和３年自選作品結果発表

◇１２月３０日（木）会報１２４号発行。カラーＢ５　１６ページ

※県協会３２回総会の案内（文書総会）、自選作品結果発表。

※連載俳句講座第２回「『切れ』について」

◇第３２回現代俳句大会（紙上大会）の開催（２月～８月）

２句１組千円で募集

※大会一席を県の現代俳句運動に功績のあった「田原千暉俳句大賞」とした。

※大会を現代俳句の宣伝普及の場と捉えた活動。過去最多の６３２句の応募。

※協会外の希望者に添削＆コメントのサービス。３３名が希望。

◇第３２回総会（文書）

※コロナ禍での強い協会を構築する活動、協会内の学習システムの決定。
※新役員の承認（副会長に河野則子氏が加わる。他は全役員、顧問留任）

◇第２４回大分県現代俳句協会賞の決定

※受賞者：福田英子『虎落笛』、準賞：稲田久美子、甲斐加代子

◇４月２５日（月）句会報１７号発行。Ａ４　４ページ

※第１回雑詠句会選句号

◇５月３１日（火）会報１２５号。カラーＢ５　２６ページ

※第２４回大分県協会賞特集、第１回雑詠句会結果発表

◇５月３１日（火）句会報１８号発行。Ａ４　１２ページ

※第１回雑詠句会結果発表及び第２回雑詠句会選句号

（**足 立　攝**）

宮崎地区

会長　　山口木浦木

◇吟行会

５月に計画したがコロナ禍により中止した。

◇誌上句会

１０月２０日に全会員に各自二句を募集。投句数５４句
全員に選句依頼し、会報５７号に　詳細を記載

炎昼を行く炎昼を出るために	長友　　巖
ランナーの汗とピアスは輝けり	遠目塚信子
髭剃りはひとりの儀式夏終わる	仁田脇一石
宿直の先生と観る月の海	池水　　侃

◇令和３年度総会

２月２０日開催　直前にコロナ感染急増により欠席が急増し、出席者９名・委任１８名で開催

議事

令和三年度事業実績及び収支決算、令和四年度事業計画及び収支予算、創立３０周年記念大会実施計画・及び収支予算、規約の一部改正・・・・・全て異議なく承認

◇新春句会

総会後に恒例の句会を行い、加予定者の事前投句の３６句を会報５８号に掲載

◇その他

ザ・ハイク新鮮組句会
毎月第二火曜日に青年部６名程度で勉強句会

会報５７号・５８号
１２月２８日及び６月３０日に発行。

（**吉村　豊**）

鹿児島地区

会長　**高岡　修**

◇篠原鳳作忌俳句大会　令和３年９月１８日

長崎鼻での修忌行事・フラワーパークでの句会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のために、紙上俳句会として実施することに変更。

参加者５４人・投句数１０８句

篠原鳳作賞（大会賞）

風の鍵いっせいに解く曼珠沙華　堀口　良子

鹿児島県現代俳句協会賞

体内の水の沸騰終戦日　小川　莎良

鹿児島県俳人協会賞

父という淋しい兎が秋野へ翔んだ　暉峻　康瑞

南日本新聞社賞

爆心地木馬が影を嘔吐する　磯辺　正悟

指宿市長賞

海の手のひらに載せます十六夜　山下　久代

◇令和４年度新春俳句大会

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総会は中止とし、新春俳句大会を紙上俳句大会として実施。次に総会資料の一部を提示する。

令和３年度事業報告・会計報告／令和４年度事業計画案・予算案

令和４年度役員（改正年度）

総会の中止に伴い、令和３年度の役員を一年間継続する。

新春（紙上）俳句大会　令和４年２月３０日

参加者　３０人　投句数６０句

鹿児島県現代俳句協会賞（大会賞）

黙といふ海を漂ふことばたち　愛甲　敬子

◇会報第４４号の発行　令和３年１１月

巻頭随筆「種蒔きから餅搗まで」　園田　千秋

各大会入選句／諸家近詠「今年の２句」

月刊誌「現代俳句」採録作品紹介／会員の句集紹介

◇藤後左右忌俳句大会　令和４年６月１９日

桜島の左右句碑にて、１１時より黙禱・会長挨拶・献花・献杯等の修忌行事。１３時よりレインボー桜島にて俳句大会。投句者４８人・９６句。参加者１８人

藤後左右賞（大会賞）

完熟を待てず弾ける青い言葉　愛甲　敬子

鹿児島県現代俳句協会賞

文脈がどくどく吐き出す夏の闇　南園　美基

鹿児島県俳人協会賞

鉛筆に俳句という落雷があり　磯辺　正悟

南日本新聞社賞

切り取った夏空で折る青い鳥　秋山　青松

（**園田千秋**）

沖縄地区

会長　上地　安智

２０１９年１２月末、中国の武漢で新型肺炎（新型コロナウィルス）が発生し、武漢が封鎖された。２０２０年1月１６日、日本で初の新型肺炎者は中国籍の男性だった。その頃、イギリス船籍のクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が１月２０日に横浜港を出港、鹿児島、香港、台湾、沖縄を周遊し２月２０日に横浜港に帰港した。２月５日、厚生労働省は、横浜港に停泊していたプリンセス号内で新型コロナの集団感染があったと第一報を出した。２月１日に那覇にも寄港していたが､検疫を行い１３人の発熱者がいたにも関わらず、数人の乗客は下船、観光に出かけていた。２月１４日、プリンセス号の乗客を乗せた女性運転手が県内で初めての感染者になった。

あの時から既に３年近くになろうとしている。世界はコロナ禍になり、感染者は増減を繰り返し現在進行形である。変異に変異を重ねているので、それに対応したワクチンも追いつけないまま、見えない恐怖が社会に否地球上に充満したままである。

恐怖を抱えたままでも、人間は不可思議なもので慣れてしまうのである。恐怖が無意識になるのである。その現象こそ恐怖でもあろう。

沖縄の現代俳句協会も高齢者、後期高齢者が多い故に、慎重に慎重にと二重丸であるが、２０２１年の「第１９回沖縄忌俳句大会」を開催するにあたり、選者の方々（沖縄県現代俳句協会会員）に、応募作品を郵送し、選句して返送して頂き、受賞者を発表することが出来た。大賞：六月の風は未来へ惨禍越え沖縄　渡嘉敷敬子、たましいを掬いし両手夕焼ける　沖縄　座安栄。佳作は八句、応募総数１９２句。

２０２２年の「第２０回沖縄忌俳句大会」を６月５日に開催した。応募者数約２３７句、３０人が参加し会場にて参加者による選句。大賞：地球儀を回せば戦火沖縄忌　沖縄　友利正、他９作品の佳作。

以前、金子兜太先生がご健在の時に来沖された際は、講演会も開催、盛況であった。全国からの応募者数は１５００句内外、選者数３０人による入賞者の選句にも数か月かけ集票した。今のコロナ禍の状況下においてウクライナへのロシアの軍事侵攻が長期化して国民の犠牲が増え続ける最中に、中国は台湾周辺にミサイルを発射、すぐ近くには与那国島や八重山、波照間、宮古の島々がある。言葉の無力さを思いながら、日本国の様子をうかがうと日米同盟の傘下にあるという日本。かつて沖縄は琉球国であった。アジアとの交易や交流は日本より長い。そのような事象や歴史を想起すると、あのナポレオンが「南の小さな国に武器を持たない国があるが、本当か？」と驚きを隠さなかったと伝わる。

アジアの平和外交をはじめ世界の平和外交のために､琉球の歴史にならい｢民族の民俗の」アイデンティティＤＮＡで沖縄を先頭にとの夢を見た。金子兜太先生が喜びそうな夢だった。

（親泊仲眞）